



京東らがな
物見

特107
247

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5

始

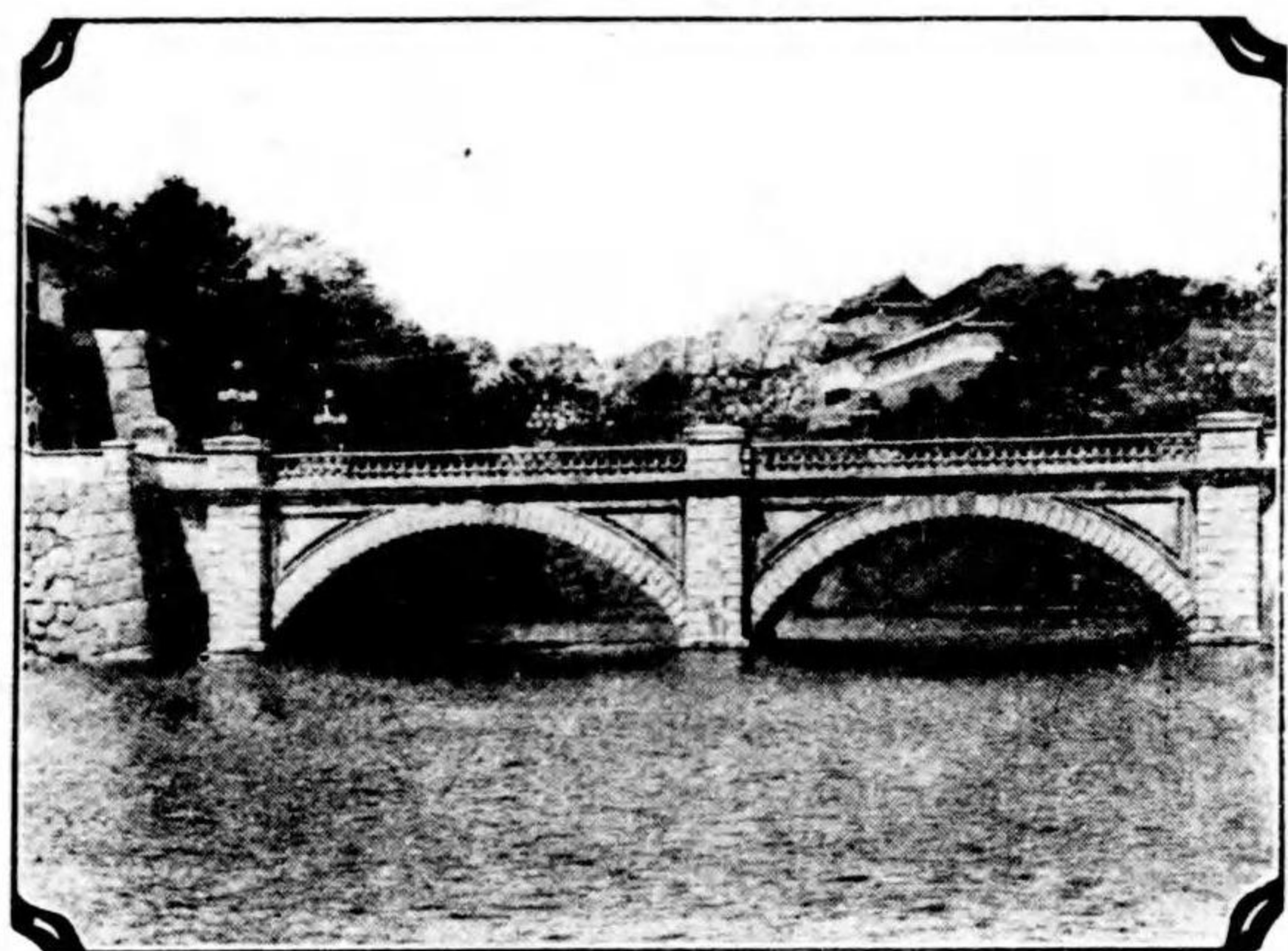


博 京 東 紀 念 和 平

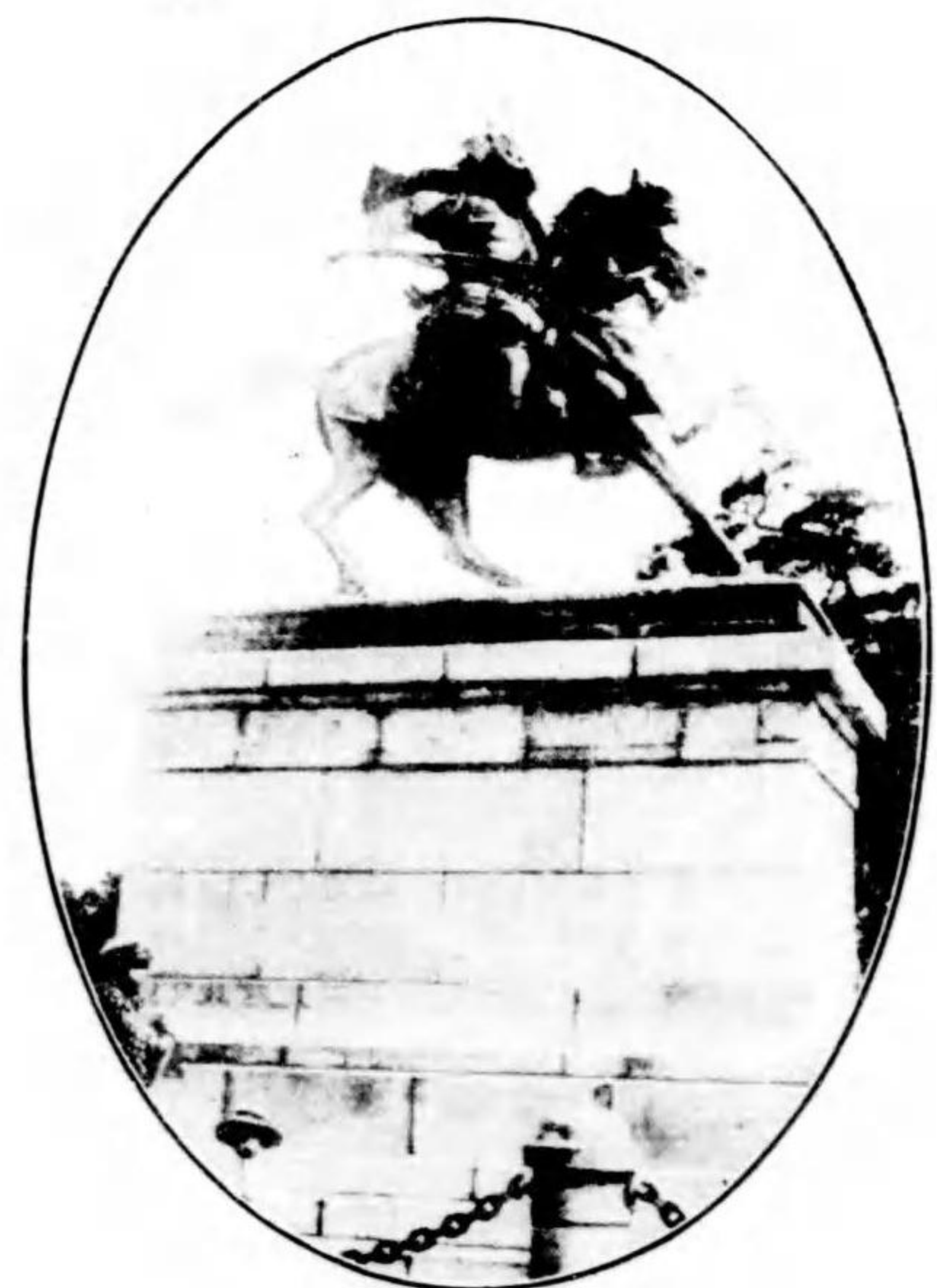
テ マ 日 廿 七 月 年 全 日 ヨ 十



特107
625



橋重二居皇



像銅成正楠前城宮

(大正十一年三月)

不許複製 東京皇成社發行





像銅盛隆郷西 園公野上



花櫻の園公野上



門神南宮神治明



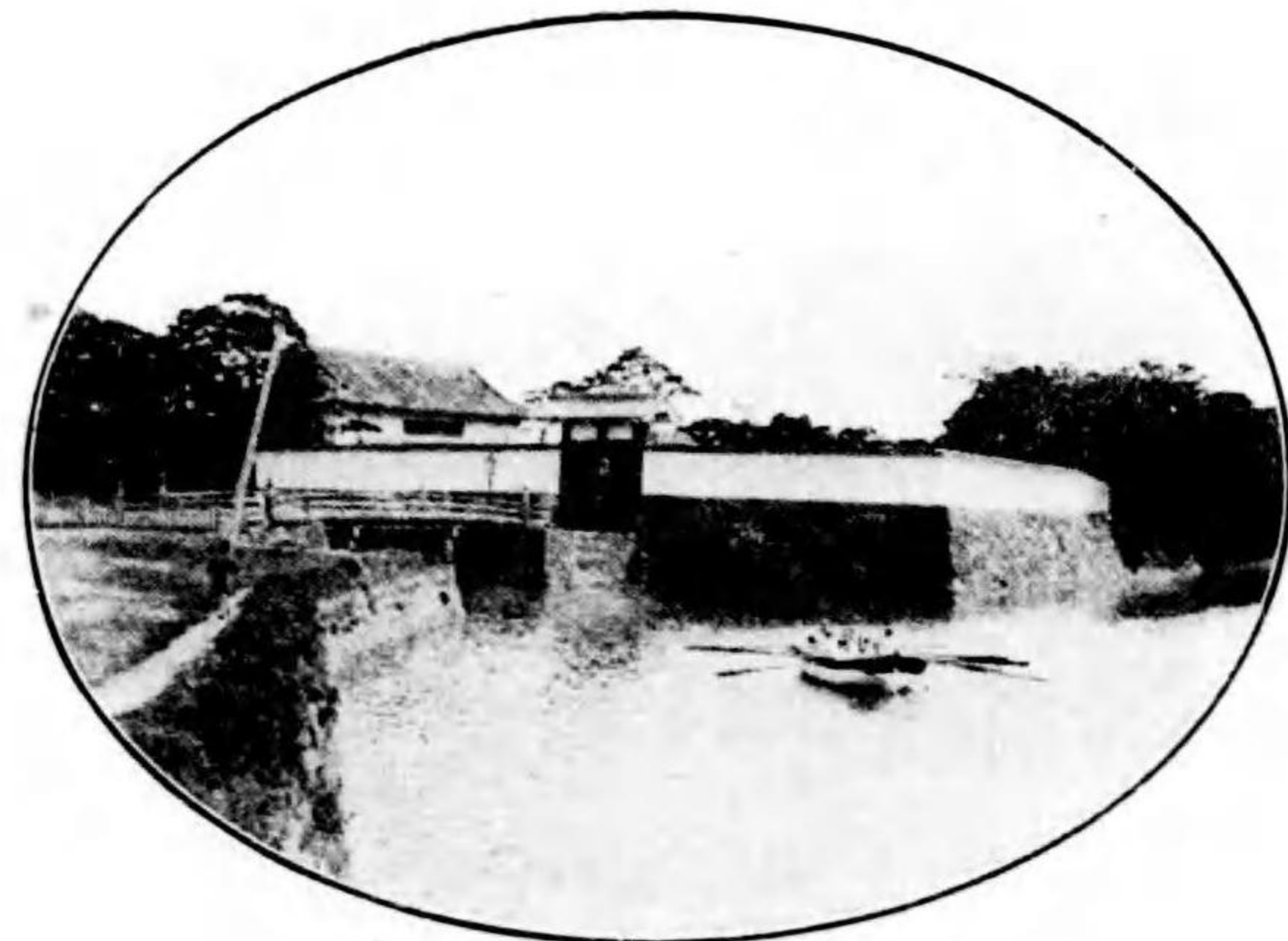
池御宮神治明



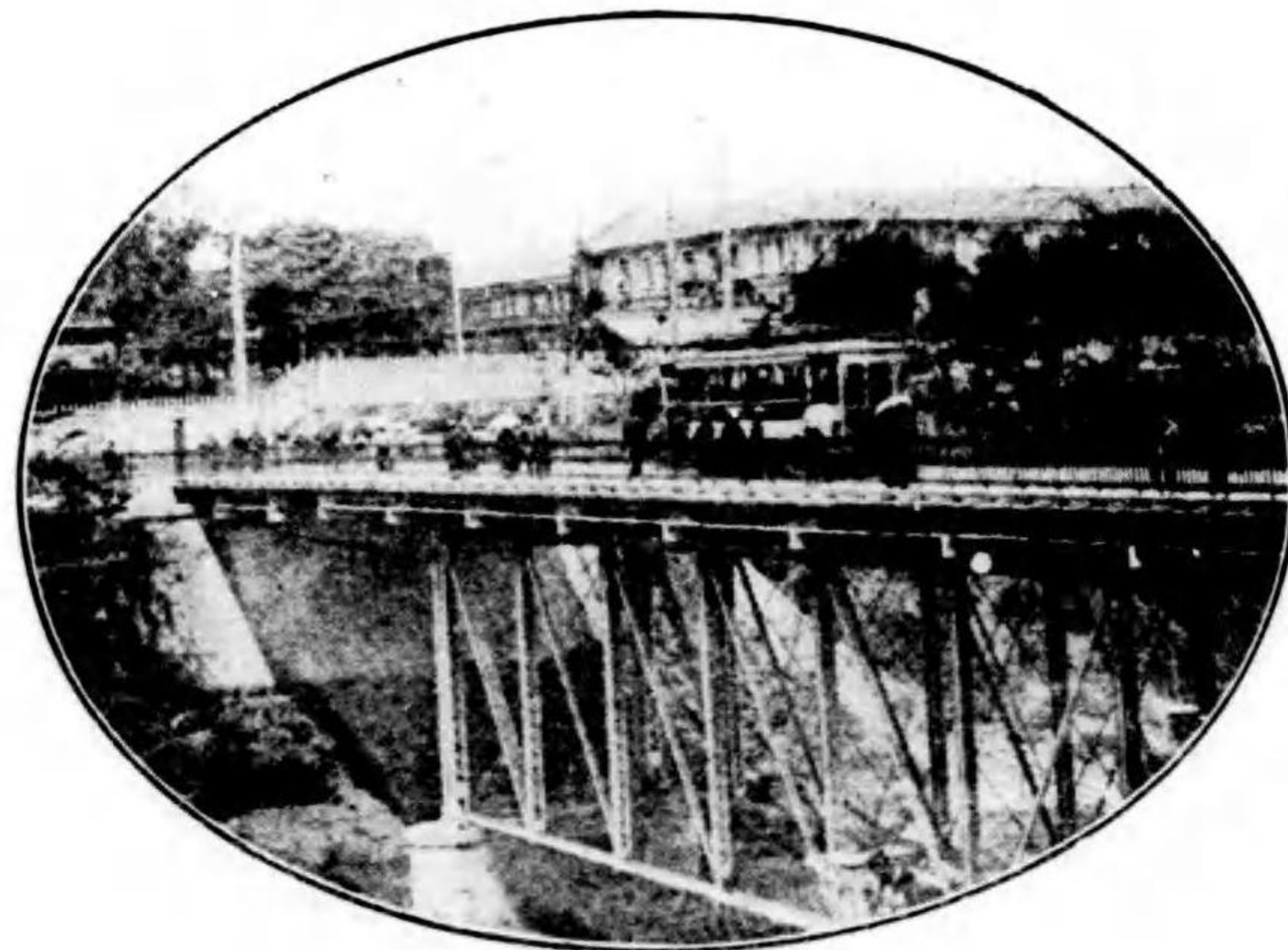
赤坂離宮



萬世橋前 廣瀬中佐銅像



濱離宮



本郷お茶の水橋



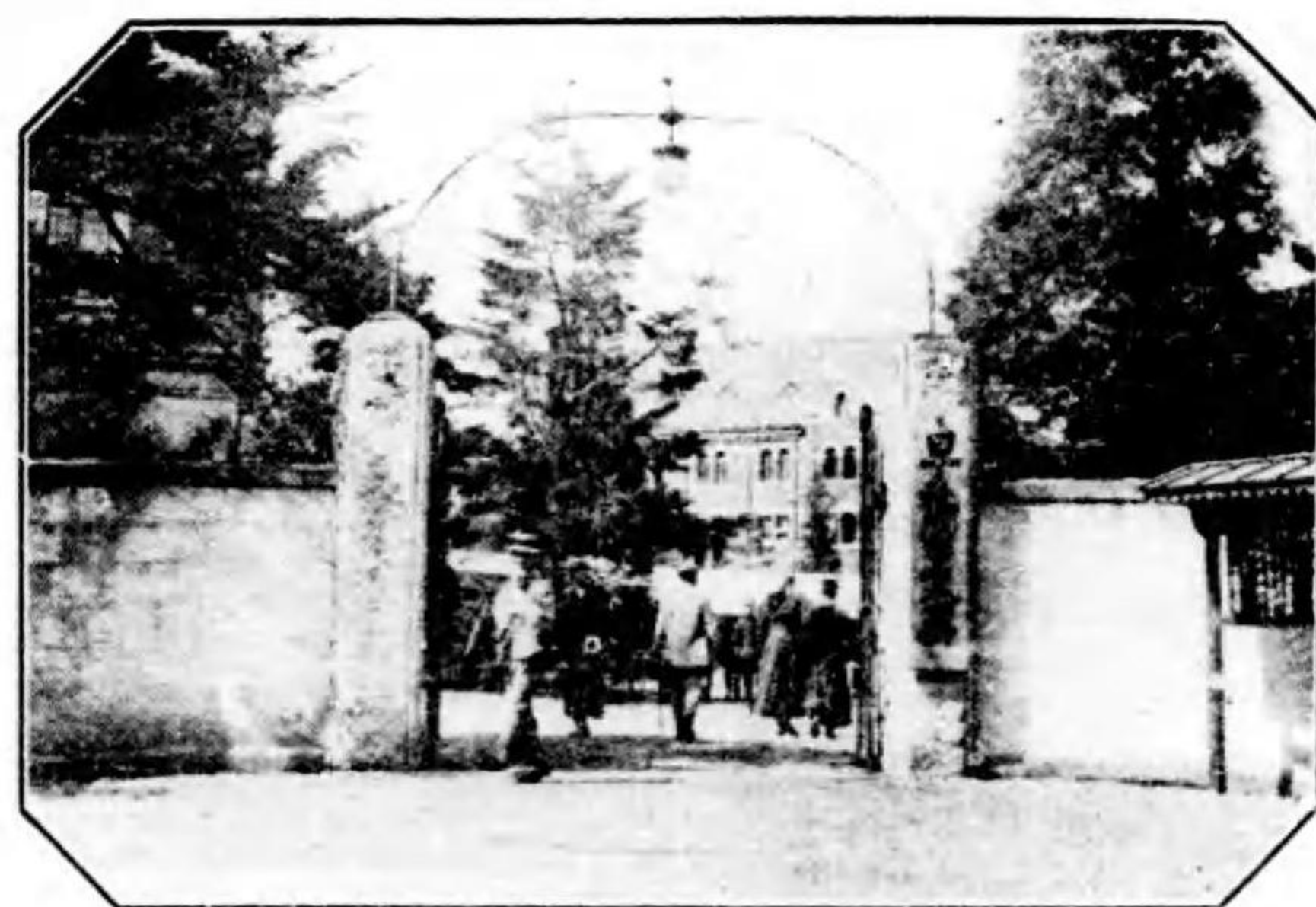
像銅子岩生爪 園公草淺



像銅侯隈大 園公芝



音世觀草淺



學大田稻早

物見京東らがな居

序

あなたは、東洋の巴里と言はれる、東京見物をなさいましたか。

若し未だ御見物になりませんでしたら、この本を御覧なさいまし。この本を御覧になれば、夜の東京、晝の東京、表面の東京、裏面の東京の偽らざる有様が、手に取るやうになります。

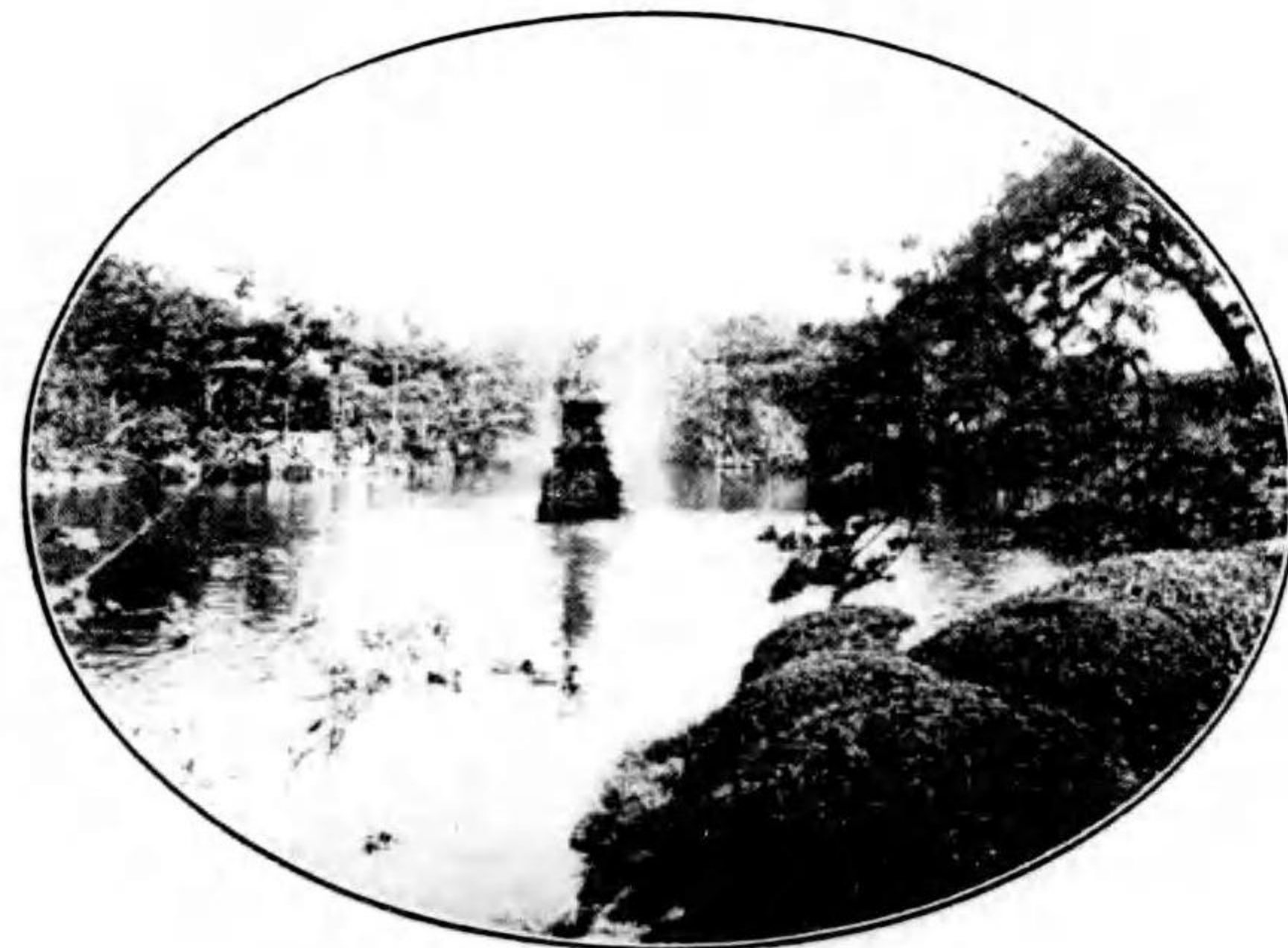
若し既に御覧になつたお方は、この本を御土産にお求め下さいまし。故郷に待つてゐる人々へのお土産話として、最も氣が利いて居ります。

若しまたこれから御見物なさらうとするお方なら、この本を案内者としてお読み下さい

大正
11. 2. 17
内交



像銅帥元山大 前部本謀參



池水噴園公谷比日

まし。案内人よりも詳しく東京の有様を書いてありますから、御見物の便利の上もありません。

編者

目次

(一)花のお江戸……………一

(二)麴町區……………八

- 宮城——二重橋——櫻田門——宮内省——樞密院——内閣——内務省——大藏省——外務省——海軍省——陸軍省——參謀本部——文部省——司法省——大審院——警視廳——東京府廳——東京市役所——有栖川宮邸——閑院宮邸——北白川宮邸——伏見宮邸——山階宮邸——久邇宮邸——英國大使館——佛國公使館——伊太利大使館——支那公使館——墨西哥公使館——白耳義公使館——靖國神社——日枝神社——平河天神——日比谷大神宮——霞ヶ關

離宮——楠公銅像——大村益次郎の銅像——川上操六の銅像——品川彌治郎の銅像——遊就館——貴族院——衆議院——近衛歩兵營——衛戍病院——商業會議所——日本勸業銀行——日本興業銀行——偕行社——華族會館——帝國ホテル——帝國劇場——中央氣象臺——有樂座——海上ビルデング——

(三) 神田區

お茶の水橋——萬世橋——神田橋——和泉橋——廣瀬中佐の銅像——松屋吳服店——ニコライ堂——救世軍本營——萬世橋驛——神田驛——神田明神——青物市場——古本屋——柳原河岸

(四) 日本橋區

日本橋——兩國橋——新大橋——日本銀行——三井銀行——第一銀行——三越

吳服店——白木屋吳服店——松屋吳服店——伊勢清吳服店——水天宮——丸善株式會社——藥師——明治座——魚河岸——株式取引所——東京米穀取引所——十間店

(五) 京橋區

銀座通——歌舞伎座——新富座——高島屋吳服店——西本願寺——住吉神社——精養軒——新橋藝妓屋町——濱離宮——第一生命保險相互會社——星製藥株式會社——服部時計店——遞信省——農商務省——海軍大學——新聞社

(六) 芝區

芝公園——愛宕公園——東照宮——増上寺——徳川靈屋——芝太神宮——琴平神社——泉岳寺——東禪寺——攻玉社——慶應義塾——田村右京の屋敷跡

——新橋ステーション——芝離宮——高輪御所——竹田宮邸——赤十字社——和蘭陀公使館

(七)麻布區

麻布御用邸——東久邇宮邸——歩兵三聯隊——善福寺——仙華園

(八)赤坂區

氷川神社——豊川稻荷——青山練兵場——陸軍大學——近衛三聯隊——米國大使館——青山御所——赤坂離宮——東伏見宮邸——乃木大將遺跡——青山墓地

(九)四谷區

新宿御苑——須賀神社——

(十)牛込區

市ヶ谷八幡——築土八幡——赤城神社——高田穴八幡——早稻田大學——大隈邸——神樂坂——

(十一)小石川區

白山神社——傳通院——護國寺——白山公園——砲兵工廠——後樂園——植物園——江戸川の櫻——

(十二)本郷區

湯島天神——妻戀稻荷——根津權現——麟祥院——本妙寺——吉祥寺——帝

——新橋ステーション——芝離宮——高輪御所——竹田宮邸——赤十字社——和蘭陀公使館

(七)麻布區

麻布御用邸——東久邇宮邸——歩兵三聯隊——善福寺——仙華園

(八)赤坂區

氷川神社——豊川稻荷——青山練兵場——陸軍大學——近衛三聯隊——米國大使館——青山御所——赤坂離宮——東伏見宮邸——乃木大將遺跡——青山墓地

(九)四谷區

新宿御苑——須賀神社——

(十)牛込區

市ヶ谷八幡——築土八幡——赤城神社——高田穴八幡——早稻田大學——大隈邸——神樂坂——

(十一)小石川區

白山神社——傳通院——護國寺——白山公園——砲兵工廠——後樂園——植物園——江戸川の櫻——

(十二)本郷區

湯島天神——妻戀稻荷——根津權現——麟祥院——本妙寺——吉祥寺——帝

(十三)下谷區……………九五

國大學——第一高等學校——湯島公園——東京教育博物館——舊聖堂
上野公園——東照宮——兩大師——凌雲院——清水觀音——寬永寺——不忍
辨天——大佛——博物館——圖書館——美術館——表慶館——動物園——美
術學校——音樂學校——小松宮銅像——西郷隆盛銅像——精養軒——常盤華
壇——いとう松坂屋——市村座——下谷藝妓

(十四)淺草區……………一〇七

淺草公園——仲見世——仁王門——觀音堂——傳法院——十二階——芝居——
活動寫真——花やしき——玉乗り——東本願寺——吾妻橋——待乳山——
大鷲神社——新吉原——柳橋

(十五)本所區……………一二五

回向院——三國神社——牛島神社——長命寺——柳島妙見——秋葉神社——
壽座——國技館——サツボロビル庭園——向島堤

(十六)深川區……………一三〇

富ヶ岡八幡宮——不動堂——芭蕉翁——洲崎遊廓——辰巳藝妓

(十七)府下の部……………一三三

明治神宮——龜戸天神——眞間山弘法寺——飛鳥山——白鬚神社——目黒不
動——本門寺

(十八)横濱市……………一三〇

目次 (終)

が居な東京見物

道灌山人著

花のお江戸

物見京東らがな居

やア皆さん、お集りになりましたね。永いこと東京見物に出掛けて居りましたので、皆さんの元気なお顔も拜見しませんでした。丁度昨日歸つて参りました。相變らず私も呑氣で健康でお喋舌でるましたが、皆さんも御健體で結構、この様子では村中相變らずの萬々歳でせう。まつたく、皆んな體の健康なことが何よりです。健康でさへ居れば、私のや

うに歯が抜けてしまつて、齒肉で牛肉を嚙むと言ふやうな齡になつても、また、體よりも頭の毛の方が先に隠居してしまつて、電気不要の藥罐頭になつても、東京見物といふやうな洒落たことも出来ずからね。まア健康で居ることが何より結構なことです。

これはくお隣家の金坊も、お菊坊も来ましたね。成程、世の中は三日見ぬ間の櫻かなとはよく言つたもの、少つとばかり見ない内に、二人共大きくなつた。この様子ぢや直きにお嫁さんになつたりお婿さんになつてしまふでせう。さアく、私が東京の銀座で買つて来たバンぢゆうをあけませう。もう汽車の中で冷めてしまつて不味いが、このバンぢゆうと言ふのは東京の名物で、パンの皮の中へ餡を入れて焼いたものだ。つまりパンのお饅頭だからバンぢゆうといふ譯で、大して美味くはないが、一つ食べて御覽なさい。

皆さんお揃ひになつたら、私が東京を見物して来た、その土産話をしませう。東京は四

里四方、十五區に分れてゐて、とてもく見物する所が多いので、なかく三月や半年の見物ぢやア見物し切れないが、此處に繪葉書も買つて来たし地圖も買つて来てある。幸ひ心覺えを手帖にも書いて来たから、それを見ながら、ほつくとお話しませう。

其前に一寸皆さんにお話して置き度いのは、東京は如何様日本の中央だけあつて、交通の便利が非常に開けてゐると言ふことです。先づ汽車にしてからが諸方の國々から集つて来る停車場が幾つもあつて、毎日何回となく往復してゐると言ふ譯さ。其内でも大きいのが東京驛、それから上野驛、兩國驛、淺草驛などで、其外にも飲田町、池袋などと言ふ小さい停車場があつて、何處からでも自由自在に出入が出来るやうになつてゐます。殊に東京驛は東海道線の集る處で一番大きい。間口が百八十四間、奥行が十一間乃至二十二間もあらうと言ふのだから大概想像かつくでせう。みな赤煉瓦と石で出来た西洋館で、延面積

は七千二百四十二坪、七ヶ年の月日と、二百七十餘萬圓の金を費して出来た、日本一の停車場であります。其正面の大玄関は帝室専用の御車寄、乗客用は右が乗車口、左が降車口になつてゐます、そして、この停車場の中には洋食屋もあれば旅館もあれば理髪店もある。洋食屋は精養軒と言つて、日本一の洋食屋から出張してゐるし、旅館はステーションホテルと言つて、外國から来た人や新婚旅行に出掛ける人などの泊まる處だ。

上野の停車場もなかく、大きい。此處は明治十四年、元の日本鐵道會社が開いた停車場、東北方面から来る汽車の着く處で、上野公園、それ例の西南役で有名な西郷隆盛の銅像のある公園さ、あの公園のすぐ側にあります。その外淺草停車場は上州地方から来る汽車の着く處、兩國停車場は房總方面から来る汽車の着く處、池袋停車場は埼玉、飯田町は長野や甲州の方面から来る汽車の着く處ですが、皆な毎日乗る人と降りる人で、戦争のや

うな混雑をしてゐます。雑踏薯を洗ふが如しなんてよく言ひますが、本當に皆さんが畑の歸りに、裏の流れで薯を洗ふ時のやうな混雑をします。私なぞも見物に出かける時には、『東京と言ふ處は生馬の目を抜く處だ。ほんやりしてゐると直ぐ懷中物の行方不明に逢ふから、人を見たら盗人と思ひなさい』と言つて、村長さんに認められたが、本當に停車場のやうな混雑する處には、澤山生馬の目を抜くの商賣にしてゐる人間がゐるから、氣を附けなければいけません。

停車場の重なるものはそれだけだが、東京にはこの外は、電車の線が蜘蛛の巣のやうに絡んでゐます。眞實さ。蜘蛛の巣のやうに絡んでゐると言ふのか一番いゝ。この地圖を見てもわかる通りだ。右から左、前から後、一寸歩いたかと思ふとすぐ電車道へ出る。それだけ便利な替りに安心して歩くことも出来ないが、それは全く目が廻るやうです。この電

車が夜になると寝に行く宿屋のやうなもので、車庫と言ふ大きな庫があるが、それが丁度十幾つかあつて、千幾臺かの電車がしつ切りなしに運轉してゐる。その目まぐるしいこと、實際落ちく道歩き、ことも出来ない位さ。

處でその電車の話だが、電車と言つても東京の電車は重にボギー式と言つて、普通のよりは大きいのだ。殊に品川から銀座を通つて淺草、上野へ出る電車は、車の後先と中央とに口があつて、なかく便利に出来てゐる。そして先の方の口は乗る人はかり、中の口は降りる人ばかりと極つてゐるので、私などは毎度間違つて、車掌さんに叱られたものです。この電車のまた混み合ふこと、とても私などは座席へ坐ることも出来なかつたものです。殊更朝と夕方は勤人の出掛けと歸り掛けとで、鈴成りの有様さ。中へ入れない人は電車の廻りへ警虫のやうに囀りついてゐますが、まア東京の勤め人なんてものは、命がけの

仕事です。あれが一つ足を踏み外して御覽なさい。それこそ一足下は地獄ぢアありませんか。

この外に東京市内の乗物では市街自動車と言ふ乗合の自動車と、タクシーと言ふ一人で借り切りにする自動車とがありますが、どちらも値段が高ければかりで乗り心地のいゝものぢやアありません。處で世の中も進歩したものぢやアありませんか。市街自動車の車掌はみんな女でしてね、紺の洋服に紺の帽子を着けて、甲斐々々しく働いて居ります。不思議なことはこの女車掌が出来てから、大分市街自動車の客が殖えたさうですが、やはり女ならではの夜の明けぬ國ですなア。

自動車と電車の便利な中に、今でもやはり人力車と言ふものがありますが、東京ではあまり流行してははるないやうです。私なども見物に出かけて、雨にでも逢つた時には、人

力車の御厄介になつて見ましたが、何しろ値段が高いのでたまりません。道の五六丁も馳けさせたら、すぐ一圓位は取られるのですから、あれでは流行らなくなるのも當然でせう。それでもまだく、東京の所謂通人なる者は、自動車は成金臭があつて野暮でいかぬ。などと言つて、花柳界へ出掛けるにはメリケンのゴム輪かなにかで、すつと門付けにするのが粹とされてゐるさうです。面白いことぢやありませんか。

さア、乗物の便利な話しはそれ位にして、いよく本篇に取掛りまして、東京驛へ下車してからの見物物語に一轉することにしたませう。ハ、ハ、ハ、これは東京で私が見て来た、活動寫眞の辨士の口眞似ですよ。

麴町區

先づ私は東京驛、日本の中央停車場へ降りましたが、見物した順序として、此處からお話致しませう。

東京驛の大きなことは、前にお話したから抜きにして、驛内の模様は別段何處も變りはありません。たゞ規模が大きいだけに吃驚する程大仕掛ではあるが、赤帽に荷物を預けて出るまで、田舎も東京も様子は變つては居りません。それから改札口を出て、さて東京驛の出口に立つと、こゝで初めて吃驚仰天すると言ふ譯です。吃驚すると言つても別段敷石の替りに金銀が敷きつめてあると言ふ譯ではありませんが、見渡す限りの平坦な道路に、寶石のやうな玉川砂利が敷きつめてあつて、殆んど塵などと言ふものは薬にし度くも落ちて足りません。

處でいつまでも砂利を見てばかりても一向埒があきはしない。そこで先づこの大東京

の中央、東京驛頭に於て、之れからどう見物して廻るかを考へたのですが、これはやはり一區毎に見物して廻ることの方がよいと思つたので、先づさう言ふことにしました。つまり麴町なら麴町、神田なら神田と、かう順序をきめて見物するのです。そこで取敢へず茲は東京驛の所在地麴町區だからと言ふので、ここから見物を初めることにしました。麴町と言ふと、大分見物する所があります。先づ一寸數へ上げて見ても、官城、各官廳、日比谷公園、九段、清水谷公園、星ヶ岡公園、三菱村、などと言ふ譯で、此處だけ見物して廻つても二三日の日數はきつとかりませう。然しどうせ見物序でなら、出来るだけ廻るに如くはないのだからといふので、片端から見物して来た處を、左に御紹介することに致しませう。

●宮城　こゝは東京驛から十町とはありやアしません。何しろ驛から飛び出しさへすれ

ば、大内山の松の木が拜めると言ふ位ですから、歩いても十五分かゝれば充分來られます。三菱村から馬場先門を通つて、その正面が二重橋ですから、東京驛で降りたら何よりも宮城を拜觀するのが一番便利です。

宮城といへば昔、太田道灌といふ人が築いた江戸城で、それが徳川幕府の大御所となり、御維新で大内山になつたのですが、その壯嚴と言はうか、幽邃と言はうか、何とも勿体ないやうな景色には、全く思はず知らず頭が下らすには居られやしません。洋行した人などの話を聞いて見ると、世界の皇居の内では、日本の宮城が一番神々しいと言ふことですが、それはさもあることでせう。

何しろ畏くも、天皇陛下のゐらつしやる所だけに、その重々しい美しさは、何ともお話しすることも出来やアしません。まア本當に宮城の美しさを知らうとしたら、一度上京し

て拜観して見るに限りません。よく昔の人が

『日光を見なけりや結構とは言はれぬ』なぞと言ひますが、私は宮城を拜観しない内は結構だとは言はれないと思ひます。先づ宮城を取りめぐるお濠の水にしてからが、蒼々と神寂びてゐまして、その又石崖に生ひた何百歳の老松なぞの趣きと言つたら、又と見られぬ雄大なものです。

此のお濠を一步這入ると即ち丸の内の大廣前ですが、此處は又芝生と玉川砂利の道とで、塵一つ止めないやうな神々しさをみせて居ります。その美しいこと、私等のやな初めて見物に行つた者は、その石の上を土足で歩くには、勿体ないと思ふ位です。

●二重橋 馬場先門からその砂利で廣場を通つて行くと、即ち二重橋ですが、拜観する者は大抵此處で 天皇陛下の御無事を祈つて、櫻田門の方へと左折する譯です。

●櫻田門 此の門は昔は江戸城の正門であつたと言ふことで、萬延元年水戸の浪士等十七人が、大老井伊直弼を刺殺した、それ、皆さんも芝居や講釋でお馴染みの門です。別段今見た處ちやア面白い譯でもありませんが、それでも昔雪の積つたこの門前で、血の雨を降らしたと思ふと、又別の趣も出て來ますよ。

この櫻田門を出てから、第一日の麴町區内の名所を見物して歩きましたが、それを一巡つた道順通りに話して居ると長くなりますから、一つ見物したものの種類によつて、取纏めてお話しすることに致しませう。

この麴町區内の名勝と言ふのも可笑しいが、見物すべき價値のある處は、大分澤山ありますが、其内重なるものを擧げると、(一)官衛では樞密院、宮内省、内閣、内務省、大藏省、外務省、海軍省、陸軍省、參謀本部、文部省、司法部、地方裁判所(この中に大審院、

控訴院を含む) 警視廳、東京府廳、市役所、近衛師團司令部の十七、(二)各宮殿下の御邸では有栖川宮邸、閑院宮邸、北白川宮邸、伏見宮邸、山階宮邸、久邇宮邸の六、(三)各外國の公、大使館では英國、佛國、伊太利、支那、墨西哥、白耳義の六、(四)公園では日比谷公園、星ヶ岡公園、清水谷公園の三つ、(五)神社では靖國神社、日枝神社、平河天神、日比谷大神宮の五、(六)離宮では霞ヶ關離宮、(七)銅像では楠公、大村、川上、品川の四、(八)其外に大きな建物では遊就館、國會議事堂、近衛歩兵營、衛戍病院、商業會議所、郵船會社、三菱銀行部、日本勸業銀行、日本興業銀行、倍行社、華族會館、帝國ホテル、帝國劇場、有樂座、中央氣象臺、海上ビルディングの十二といふ譯で、ゆつくりと見て歩いたら、なか／＼一日では見物しきれずまい。それを私は一日で見て歩いたのだから、思ふやうにはお話し出来ませんが、まア、ざつと見た所感をお聞かせしませう。

宮内省 これは別段見物して面白いと言ふ處ではありません。ただ日本の官衛の一つとして、吾々國民一度は見えて置く必要がないでもないで、一寸廻つて表門だけ覗いて見た譯さ、何アに、別段立派と言ふ程の建物でもありやアしません。東京驛からなら電車も何もいらぬ。まつ直に馬場先門から丸の内を通つて、二重橋の處を右へ廻り、坂下門を潜れば直きだから、東京へ出掛けるのだつたら、立廻るのもいゝでせう。

樞密院 これも見物するやうな面白い處ぢやないが、日本の政治を司る處では重要な所だから、兎に角私の乗つた電車の道順だけお話ししよう。東京驛から乗るなら神明町東京驛間の電車で左行するのへ乗つて、東京市役所前で乗り替へるんです。そこから青山行へ乗つて櫻田門か、三宅坂で降りるんだが、停留場からはそんなに遠くはありアしません。

内閣 つまり總理大臣が鎮座しまして、日本の政治を司る中央機關さ。これも先き

の宮内省へ出る坂下門、それを潜らずに眞直に行つて桔梗門を潜つた處です。まア日本の國民として、見られたら見て置いて損はない處さ。

内務省、大藏省 これは兩方とも大手町の電車通りから一寸這入つた處で、東京驛

からは二丁半ばかりの處だから、電車へ乗る前に立廻つてもよいでせう。いくら大藏省だからとて、金貨や紙幣で建築されてゐる譯でもないし、却つて東京驛あたりから見れば汚ないが。

外務省、海軍省 これは兩方共霞ヶ關一丁目だから、東京驛からなら市役所前で市

内線の電車、青山行へ乗つて、櫻田門で乗り替へると、すぐ次が霞ヶ關さ。この霞ヶ關で降りると、あのそれ、和歌山出の政治家、故外務大臣陸奥宗光伯の銅像がある。これは一寸一覽すべき價値がありませう。伯は有名な坂本龍馬、後藤象次郎などの豪傑と交りの深

かつた政治家で、明治元年正月始めて外國事務局御用掛を仰付けられたのを出世の緒に、日清戦争の講和の時に、伊藤公と共に働いて、伯爵正二位までに進んだ人さ。其間に大臣もやれば議員もやる、樞密院顧問もやつて、なか／＼政治家として働きのあつた人です。

陸軍省、參謀本部 これは兩方とも永田町だから、先きの東京市役所前から青山行

の電車に乗つたら、乗り替へなしに三宅坂で降りればよい。陸軍省は日本の陸軍一切の事を司る處で、參謀本部は軍事の計劃を立てる所だと聞いたが、別段これも面白いものぢやアない。ただこの參謀本部のある處は、昔加藤清正の邸であつたのが、後年井伊侯の邸となり、今又參謀本部になつてゐるのだと云ふのが面白いね。この參謀本部の前にはね、有栖川宮の銅像があるから、之れは有りがたく拜んで來ました。この有栖川宮は熾仁親王と仰つて、書法の名家、熾仁親王の御總領でいらつしやるのです。參謀本部とは非常に御縁

故の深いお方で、明治天皇が登極せられてからは、西南の役にも總指揮官になられたし、明治二十五年の特別大演習觀兵式の折にもやはり總指揮官になられたし、明治十八年左大臣を罷められてからは參謀本部のことを御兼任になつてゐられたし、宮城の内に大本營が設けられてからは、非常に軍事にお盡しになつたお方です。

●文部省

これは學問や學校のことを司る處だが、別段見物すると言ふやうなものぢや

アない。ただ後學の爲めと思つて見るなら、電車は東京驛前から巢鴨行に乗つて、一つ橋で降りれば直ぐの處だ。

●司法省 大審院

司法省は日本の法律に關することを司る處、大審院は一番最後の

裁判をして事の正邪を明かにして呉れる處だか、これは二つ共、宮城拜觀を濟ませて櫻田門を出ると、すぐ左側に並んで見える。赤煉瓦造りの立派な建物だが、まア参考の爲め

に見るのです。そして地方裁判所の中には、又大審院と控訴院とが同居してゐます。控訴院と言ふのは地方裁判所で裁判した結果、そのお裁きが不服の時に控訴する處、大審院に更に控訴院でも、そのお裁きが不服の時に上告する處です。

●警視廳

これは謂はゞ東京の警察の親玉ですね。東京驛からは直きで、先きの馬場先

門から左へ折れた電車通りですから、一寸見て置いて損はありません。赤煉瓦の大きな建物で、すぐ並びの帝國劇場の白煉瓦造りの建物といふ對照を爲してゐます。東京では何でも帝國劇場と警視廳とが並んでゐるので、この處を地極、極樂だと言つて、名所の一つに數へてゐるさうです。何程ね、さう言はるれば片方は犯罪者を取り扱ふ處で地獄、片方は不景氣知らずの大劇場ですから極樂といふ譯で、なか／＼洒落たことを言つたものです。●東京府廳、●東京市役所 これは東京驛からは殆んどお隣りと言つてもよい程近い處

で、二つとも並んでゐるから、見物するには便利です。今度後藤男が市長になつてからは、東京市政が大改革をされると言ひますから、この市役所の方は一度覗いて見てもよいでせう。

さア、今度は宮様方のお邸と、各外国の大公便館とですが、これは面白いの可笑しいのと言ふ處ではないのですから、後に見物に出かける人の爲め、各所在の町名番地だけお話しませう。

- 有栖川宮邸 三年町。電車葵橋下車。
- 閑院宮邸 永田町。電車赤坂見附又は平河町下車。
- 北白川宮邸 紀尾井町。電車平河町下車。
- 伏見宮邸 紀尾井町。電車四谷中町下車。

- 山階宮邸 富士見町五丁目。電車富士見町下車。
- 久邇宮邸 一番町。電車五番町下車。
- 英國大使館 五番町。電車五番町下車。
- 佛國大使館 飯田町二丁目。電車九段下下車。
- 伊太利大使館 霞ヶ關。電車虎の門下車。
- 支那公使館 永田町。電車赤坂溜池下車。
- 墨西哥公使館 永田町。電車赤坂見附下車。
- 白耳義公使館 三年町。電車震ヶ關又は葵橋下車。

今度は大きな神社をお話しする順序ですが、これは先づ九段の靖國神社が一番です。ここへ來るには東京驛前から濠端へ出て、右行する電車へ乗るのです。そして小川町か又は

神保町で乗りかへ、左行する電車へ乗ると、黙つてゐても九段下までつれて来て呉れます。電車を降りるとすぐ目の前に例の有名な九段坂が見えますから、之れを登ると即ち靖國神社と言ふ譯です。

靖國神社 靖國神社は俗に招魂社と云つて、嘉永以來國事で斃れた勇士の英魂を祭つてある處です。毎年四月及び十月三日間に亘るお祭りが行はれますが、その時はなかくの人出で、この九段坂の上は色々な見世物やら出商人が軒を並べて、なかく面白處だと言ふことです。この神社の中にはまた、銅像が三つと遊就館などがありますが、これは是非一々見て置く價値があります。銅像や遊就館の詳しい説明は、後に銅像の話しと其他の大きな建物の話しの番になつた時に、致しますから、こゝでは神社ばかりのお話しをしませう。

日枝神社 これは永田町の星ヶ岡公園にある神社ですが、元は山王権現と稱し、大山祇神を祭つたものです。電車は外濠線へ乗つて赤坂の山王下で降りると直きです。一寸小高い山になつてゐまして、箱庭か盆景のやうな、趣向を凝らしてありますから、なかく面白い處です。ここの公園には清風亭などと云ふ小さな旗亭がありまして、よく和歌俳諧などの會合が催はされると言ふ、なかく風流な處です。

平河天神 これは電車を平河町で降りると直きですが、特にこの種の神様に御信心なすつてゐらしやる人の外は、わざ／＼見物に出かける程の名勝でもありません。尤もこの近所には衛戍病院(集 町)や兵器本廠(集 町)がありますから、之れを見物する傍々立廻つて見るのも、又一興かも知れません。

日比谷太神宮 維新後、伊勢太神宮を鎮座した神様で、伊勢太廟に摸してあります。

が、今は結婚媒介が本業のやうに思はれてゐます。例のそれ、何々大學出身の秀才と、何々女學校出身の才媛と、何月の何日華燭の典を擧ぐ、といふ新聞の結婚記事で、誰人もなく御存じでせう。あの神様がこの日比谷大神宮です。何でも伊勢の大神宮の分店だと言ふことですが、今では殆んど結ぶの神様の内職の方が盛んで、毎日十組や五組の華燭の典のないことはないと言ふことです。そのまた華燭の典なるものが不思議です。一等から何等までとかあるのだから、一等何百圓、三等何十圓と、その相場がちやんと極つてゐると言ひます。一等の方で華燭の典なるものを擧げたら、多分神様が特別にしつかりお結び下さつて、一世も二世も三世も離れないのかと思ひましたが、よく聞いて見ると、そんなこととはないのだからです。一等で結ばうが三等で結ばうが、離縁する時は半世が一月でも御勝手次第の當人次第、その方の責任は神様では負はないと言ひますが、可笑しなことぢ

やありませんか。一寸見物に行つても、毎日必ず結婚の式があつて、門前には澤山の自動車や馬車が待つてゐますから、東京へ出た人は一度後學の爲めに見物して來るのですね。ハ、ハ、ハ、ハ。

霞ヶ關離宮 霞ヶ關一丁目にあつて、天皇陛下の御出遊の爲めに設けられたものであります。附近には陸奥伯の銅像、樞密院などがあるから、拜觀傍々立廻るのもよいでせう。

楠公の銅像 南朝の忠臣、楠正成公のことは、皆さんよく御承知で、説明を要しませぬが、この銅像は特に宮城前に据ゑられてあります。繪葉書などで、皆さんもよく御承知だらうと思ひますが、馬上に甲冑をつけた勇姿は、一目見るより當時の忠勇の様が思はれて、思はず襟を正さずにはゐられなくなります。この銅像は明治三十年大阪の住友吉左衛門氏が、伊豫別子銅山の精銅で鑄造し、献立したものであると云ひます。

大村益次郎の銅像

これは九段の靖國神社の中にある銅像です。大村益次郎は維新の際に大功のあつた人で、諱を永敏、初め村田藏六と言つた人であります。其時代から洋書を好んで學んだ人ですら、随分新しい男の方で、毛利氏の公學教授となり、普國の兵書などを盛んに翻譯して、皇國のためには随分力を盡したと聞いて居りますが、其の死なれた時もやはりその事が害をなしたのだと言ふことです。何でも其當時佛國式の軍制を採用しようとして力説したので、舊守派の人の反感を買つて、それで殺されたのだと言ひますから、なかく軍のことは縁の深い人で、靖國神社へ銅像を建てたのも多分そのためでせう。

川上操六の銅像

それ、例の征清の役に從つて、大本營陸軍參謀となつた、川上中將(後に大將となる)の銅像です。この人は大山陸軍卿に從つて、明治十七年頃に歐州に遊

學した位の人で、當時では大分新進の人であつたのでせう。後には臺灣事務局の總裁となつたりした人で、この人もなかく軍のことは關係の深い人ですから、茲へ銅像を建て、るのも當を得と言へるのでせう。

品川彌次郎の銅像

念佛庵と自稱した勤王家で、吉田松陰の弟子です。やはり西郷従道などの友人で、その國家主義を唱へた時などは、國民協會を設け、その發會式の折は「余と西郷とは生首を賭して國家主義の爲に盡すことを諸君の前に誓ふ」と言つた位の、霸氣に富んだ才傑ださうです。そして非常に教育に力を用いた人ですが、一方又俗語を作ること妙を得た人で、皆さんも御承知のトコトンヤレ節と言ふ歌ですね、あれはこの人が作られたのだと言ひます。なかく面白くありませんか。まアこの三つの銅像は、東京へ行つたら是非とも見て廻るべきです。

遊就館 これは九段の靖國神社の中にある、戦争の紀念品や戦利品の陳列所のやうなものです。日露戦争で死んだ人の洋服だの、日清戦争でぶんどった珍しい刀だの、古の戦争に用ゐた鐵砲だの、なかく珍らしいものが澤山あります。参考になるばかりではなく、見てゐてもなかく面白いものですから、靖國神社へ行つて大村、品川、川上の銅像を見たらば、是非共此處へ這入つて見物しなければいけません。

貴族院、衆議院 これは霞ヶ關にありますから、陸奥伯の銅像や、霞ヶ關の離宮を拜觀した歸りに、一寸見物することが出来ます。貴族院の方は華族方などの議員が國政を論議する處、衆議院の方は民間から出た議員が國政を論議する處で、毎年一回議會が開かれて、日本中の議員が集つて來るのです。東京ではこれを日比谷座と稱へまして、殆んど芝居のやうに心得て居ります。

近衛歩兵營 これは九段坂を登つた處の田安門を這入ると、近衛師團司令部、近衛軍樂部、教育總監部、近衛經理部などが一所になつてあります。まア九段から靖國神社を參詣するには、是非この前を通りますから、表だけでも見物して置くのですね。

衛戍病院 これは平河天神の直き側にありますから、參詣かたが見物して來られます。

商業會議所 これは有樂町で、東京府廳の近くにあり、附近には更に丸の内郵便局、古川坑山、三菱會社、明治生命保險、明治火災保險などがあつて、所謂三菱村の一角になつて居りますから、是非通らねばいけません。この附近は道路と言ひ建物と言ひ、實によく整頓してゐて、私などは外國へ來たのぢやないかと思つた位ですから、まア都會と言ふものを、代表的に表はしたやうな所です。此處は非常に大きな建物ばかり、而も同じや

うな様式で一寸見當がつかぬやうに出来てゐるので、處々に「丸の内案内所」と言ふ私設交番のやうなものが出来てゐまして、通行人の便を計つて居ります。その位ゝ込み入つた西洋館町ですから、全く初めて見た私などが、西洋へ来たのぢやないかと思ふのも、決して無理ではありません。

日本勸業銀行 公債を發行するので、皆さんお染みの銀行です。内幸町で電車を降りると、すぐ停留場の前です。

日本興業銀行 これは東京驛からはすぐ側で、錢瓶町と言ふ銀行には至極ふさはしい町にあります。

階行社 何のことはない將校連の俱樂部のやうなもので、これは九段にあります。
華族會館 内山下町にあります。電車は内幸町下車。

帝國ホテル 日本の代表的旅館兼西洋料理屋ですから、一度見て置く必要があると思ひましてね、私もその門前だけは見て来ましたよ。何でも日本へ来た外國人などは、大抵この旅館へ泊るのだと言ふことで、年中西洋人の出入の絶えたことがないさうです。其外婚禮、結婚披露會などのよくある處です。

帝國劇場 日本で一番ハイカラな、そして華族様方のよく御覽になると言ふ芝居です。丸の内のお濠端を宮城の方へ向ひまして、大きな白煉瓦の建物平面建坪は六百四十五坪、高さ六十六尺、千七百人の人が這入れるさうです。そしてその屋根の上には翁が踊つてゐる處の人形が掲つて居りまして、なか／＼何様の宮かと思ふやうな廣大な建物です。この帝國劇場が出来たばかりに、よく私どものやうな東京見物に行つた者が、この前で手を合せて拜んだなどと言ひますが、全く芝居だと聞かなかつたら、一寸拜み度くなるやうな立

派な建物です。一晚都合がつかいたら、行つて見度いと思つてゐましたが、とうとう出掛けられませんが、惜しいことを致しました。只今は座附の役者は松本幸四郎、尾上梅幸、澤村宗十郎などですが、此外にそれ、女優で有名な森律子、初瀬浪子などと言ふ、美しい女優方が澤山居るのだと言ひます。そして之等の男女優が大歌舞伎をやるのだと言ひますから、見物して歸らないのが何より残念で堪りません。

有樂座 この外に有樂町、数寄屋橋の際に、有樂座と言ふ芝居があります。これも帝國劇場の経営で、なかくハイカラな、立派な劇場です。

中央氣象臺 これは丸の内舊本丸にありましてね、毎日の天氣のことやら、氣象に關すること一切を取扱ふ處です。

海上ビルディング

東京驛を出ると、真正面に見える、日本一の大建築物で、お天

氣のよい日には、眞白く光つて見えます。階数は七階ですが、一階毎の高さが高いのと、一帯この邊の土地が高いとで、淺草の十二階よりは、何尺とか高いと言ふことです。この建物の中には、あまり間数があるので、何百と言ふ會社が、その一間乃至幾間かつつを借りて、事務を執つて居りますが、殆んどこの中だけ一つ一つの町のやうになつてゐるさうです。食物屋もあれば呉服屋もあり、湯屋から散髪屋まであるさうですから、なかく面白いやありませんか。而も食物屋は中央亭と言ふ一流の洋食屋が中に出張店を設けてありますし、呉服屋は白木屋呉服店が出店を出して居ると言ひますから、この一軒の建物の中だけでも、なかく田舎の町よりは發展してゐると言ふ譯です。

此外に此の区内の大建物として、法政大學、東京女學館、陸軍軍醫學校、學習院女學部、國學院大學、三輪田女學校等の學校がありますが、之れは面白くもありませんから、

略して置きませう。

さア私の見物して歩いた麴町中の名勝はこれ位ですから、この話しはいゝ加減で切上げて、あとはお次の神田區内を見物したお話をしませう。

神田區

昔は神田兒と言へば、江戸兒の代表的のものとされてゐたのです。芝で生れて神田で育ちと言ふ歌のある通りで、昔は江戸見物に出かけたら、神田兒の言葉を聞いて來なければ本當の江戸辯に接したとは言はれなかつたのだと言ひます。今ではまア神田と言へば學校と下宿屋と本屋で充滿してゐますが、兎に角東京の學校町として、一度は見なければなりません。私も九段を見物した歸りに、ずつと名勝だけは見物して廻りました。前の例に

よつて、見物すべきものを舉げると(一)有名な橋ではお茶の水橋、萬世橋、神田橋、和泉橋の四、(二)銅像では廣瀬中佐の銅像一、(三)大きな建物では松屋吳服店、ニコライ堂、救世軍本營の三、(四)停車場では萬世橋驛、神田驛の二、(五)神社では神田明神の二、(六)其他の名所では多町の青物市場、小川町、神保町の本屋、柳原河岸の三、と言ふ譯です。

お茶の水橋 昔は何でも、由緒のあつた橋のやうに聞いてゐましたが、今はお茶の水女學校の爲めに有名な橋となつてゐます。東京としては別段立派な橋と言ふ程でもありませんが、全面青葉の中に長い鐵の橋が掛つてゐる有様は、なかゝ風景のある所です。この附近には本郷の方に入りますが、女子高等師範學校、順天堂病院などがあつて、前面の青葉と面白い對照をなして居ります。

萬世橋 萬世橋と言ふと、之れも古はめがね橋と言つて、由緒のあつた橋だと言ふこ

とを聞いてみました。今では別段これと言ふ特殊なところも見えませんが、ただ一方に萬世橋停車場の赤煉瓦の建物を見、一方に柳原の古着屋を見ながら渡ると言ふところに、一寸東京でなければ見られない味がありますね。

●●● 神田橋 これは神田小川町から、麴町宮城の方へ向ふ道に掛つた橋で、附近には多くの役所があります。

●●● 和泉橋 これは古着屋の多い柳原から、下谷方面へ向ふ橋で、古い西洋式の橋だと言ふだけで、別段大した珍らしいものではありません。

●●● 廣瀬中佐の銅像 日露戦争の旅順の役で、旅順口封鎖に向つて戦死した、海軍中佐廣瀬武夫の銅像です。像は望遠鏡を手にした軍服姿で、下には股肱の部下杉野兵曹長が、鎗を持つて空を睨んでゐます。臺石には「忠勇義烈」の文字がありますが、これは東郷元

帥が書いたものです。廣瀬中佐が旅順口で戦死せられた有様は、當時盛んに報じられて、皆さん御承知のことと思ひますが、何でも非常に悲壯を極めたるものだと言はれて居ります。旅順港口に水雷艇を自ら沈むこと再度、効を奏して歸る時に、戦士を皆ボートに移した處、杉野兵曹長のみが見えなかつたので、之れを三度探しに戻つた爲め、遂に敵弾に當つて死なれたのだと言ひます。僅に肉塊一つを残して死んだのだと言ひますから、其悲壯なこと、今なほ思やられるではありませんか。この銅像に杉野兵曹長と二人造られてあると言ふのも、よい思ひ出の種になると思ひます。

●●● 松屋呉服店 今川橋の松屋と言へば、日本で初めてパーケンデーと言ふ賣出しを行つて、有名になつた呉服店であります。帝都五指にも數へられてゐる呉服店で、三階建の陳列式で、呉服物の外にも色々な雜貨を販賣して居ります。食堂、休憩室の設備もあります。

から、神田区内を見物して、お疲れになつたらお休み下さいと言はんばかりですね。私もお誂向きだと思つたので、コーヒーを一杯飲みました。

ニコライ會堂 基督舊教(天主教)の會堂で、日本では一番古い教會です。神田方面で

ニコライの鐘と言へば有名なもの一つになつてゐます。ニコライの鐘と言ふのは、夕方此の會堂で撞き出す鐘の音のことで、古の若い詩人などの情緒を、盛んに誘つたものだと言はれてゐます。

救世軍本營 一つ橋と南神保町との間に、基督教救世軍の本營があります。赤煉瓦

の質素な建物ですが、なかく大きなものですから、序で見物しても損はありません。日曜などには盛んに救世軍の軍歌や讚美歌の聲が聞えてまゐります。

萬世橋驛 神田須田町、それ、例の八重十文字に電車線路があると言ふ所にある停車

場です。成程私が見物した日の須田町も、大變な人出でした。何しろ此處は、早稲田錦糸堀間、品川上野間、青山淺草間、東京驛神明町間、青山兩國間、巢鴨三田間の電車の交又點になつてゐるので、その混雑と言つたらありません。まるで人の山を築いたやうなもので、私も田舎から見物に行つたものは、瞬きすることも出来ないやうな有様です。而も電車ばかりか自動車も通る人力車も通る自轉車も通る、一秒間も暇と言ふものがないのだから、とても大變なものです。

この混雑のために、よく人力車と自動車と衝突したり、自轉車と電車と衝突したりするので、先年から交通巡査と言ふものが出来まして、車馬の往來を統一して居ります。交通巡査は短い劔を下げて腕に青い布を巻いて居り、そして赤と青の丸の中へ、青には「進め」赤には「止まれ」と言ふ字の書いた信號器を前へ置いて立つて居ます。そして電車の通行す

る順序に従つて通行人や車を止めたり進めたりしてゐますが、なか／＼そんな所は、流石にお膝下だけあつて、行届いたものです。

萬世橋停車場はその雑踏の中に立つてゐるのですが、赤煉瓦造りの立派なものです。この停車場は、別段地方から入り込んで来る客車と言ふものはなく、山手線の省線電車の停車場になつてゐるやうな有様です。この停車場には、「みかど」と言ふ西洋料理店が出張してゐますが、ここはよく東京の文士畫家連が、會合などをやると言ふ、なか／＼凝つた處です。

●●● 神田驛 これは東京驛と萬世橋驛との間にある、省線電車の停車場で、最近に出来たなか／＼ハイカラな建物です。大正八年三月一日より電車の運轉が開始したので、東海道線と中央線とは、之で聯絡して居ります。

●●● 神田明神 この神社は昔、神田橋内の今の大藏省の在る邊に在つたのだと言ひますが、今は宮本町にあります。萬世橋傍の昌平橋を渡つて、松住町の次の停留場で降りた處にあります。平將門の靈を祀つたものだつたと言ふことですが、明治維新後、將門を攝社に下けて、大貴己命、少名彦名命の二柱の神を祀り、府社としたと言ひます。中古以來、江戸氏、太田氏の氏神といふので、徳川時代に於ても尊崇し、明治以後も毎年の秋には日枝神社と共に盛んな祭典が行はれたものです。古は山車や御輿をもつて廻つたのだと言ひますが、今は電信電話線の爲めに、形ばかりの祭典が行はれるにすぎません。

●●● 青物市場 日本橋の魚市場、神田多町の青物市場、この二つは、東京市民に菜肴を供用する、最大の機關でせう。朝など、この多町の青物市場へ來たら、そこそ大變なものです。近郷近在の野菜を積んだ車は百千と集つて、大根、人參、果物等、山のやうに積ん

で市中の小商人に分割して居ります。尤も此處は田舎の市場と違つて、問屋が荷元から来た野菜一切を相場で仕切つて、取次卸しのやうなことをするので、片付くことも比較的早く片づいてしまひます。

●●●
古本屋

神田と言へば御承知の通り、學校の多い處です。新田の作兵衛さん、村長さんの息子さんなどの行つてゐるやうな大學校の澤山ある處ですから、従つて本屋が非常に澤山あります。殊に一番多いのは、小川町から神保町、錦町などと言ふ、神田の中央を流れた大通りで、神保町などは門並みに古本屋計りと言つてもよいでせう。法律の本には法律書類専門の書店があり、文學の本には文學書類専門の書店があり、みな専門になつて居りますが、どの本屋もみな客で満員と言ふ有様です。何と言つても學問は東京へ出て修業しますからね。

●●●
柳原河岸

萬世橋から神田川に沿ふて、淺草橋に至る邊は、昔柳の樹が數百株植ゑてあつたさうで、今でも柳原河岸と言つてゐます。此處は一帶に古着屋の多い處で、片並數百軒の商人は、殆んど和服洋服の古着ばかりを賣つて居ります。お華客先は神田の學校へ通ふ學生、安月給を取る官吏などで、店には澤山の古着が吊してあるなど、なか／＼見物ですよ。東京では新しい着物を着て來る人があると、『ハハア柳原ものだな』などと、冷かす位りですから、餘程有名なものになつてゐるに違ひありません。この古着屋は現今に初まつたものではなく、多分古からあつたものでせう。

神田は澤山の學校の所在地ですが、之れは興味がありませんから、その名前だけ擧げて置きませう。先づ日本大學、商科大學、外國語學校、中央大學、專修大學、正則英語學校、明治大學などが此處の主なる學校でせう。

さア、これで神田区内見物のあらましを話しましたから、今度はお隣りの日本橋へ足を向けて、この方のお話に取りかゝりませう。

日本橋區

お江戸の真中日本橋で、昔から江戸見物に行つたら、此處を見ないと恥のやうに心得てゐた處です。當の日本橋もお年寄などは、錦繪で馴染んでゐますが、今では洋式の石と鐵との橋に架け替へられて、昔の俤は少しもありません。やはり賑やかなことは昔に變りなく、毎日織るやうに人や車が往來してゐます。

此處の街の面白いのは、舊式の店を張つた江戸時代からの老舗と、新式の商店と軒を並べてゐること、見物して歩いてゐても、途徹もなく大きい西洋館の商店があるかと思ふ

と其間に土蔵造りの舊家があつて、何のことはない織兒同志の寄合みたやうです。然しさうは言ふもののやはり日本第一の都會で、立派な店ばかり並んでゐることは、外の都市では到底見物も出来やしません。

此處で見物する價値のある處、また私の見物した處を挙げると、(一)名代の橋では日本橋、兩國橋、新大橋の三、(二)銀行では日本銀行、三井銀行、第一銀行の三、(三)大商店では三越呉服店、白木屋呉服店、松屋呉服店、伊勢清呉服店、丸善株式會社の五、(四)神様又は佛様では水天宮、藥師の二、(五)芝居では明治座の一、(六)其他の名所では魚河岸、東京株式取引所、東京米穀取引所、十軒店の四等です。この外に日本橋藝妓屋町、葎町藝妓屋町等の花柳界がありますが、これは見物と云ふよりは遊興の方にあたりますから、お話しをします。

●●●日本橋 明治四十四年の春に出来上つたのが、今の西洋式の日本橋だと言ふことです。何でも六ヶ年の時日と五十餘万圓の費用が掛つたと言ふことで、橋身は石、左右の欄干の中央には三十尺も高い燈が建てられ、その下には青銅製の麒麟を置いてあります。又橋の兩袂には八十尺も高い燈が建てられて、此處にはやはり青銅製の獅子が置いてあります。そして之等の燈は平時は千三百燭光ですが、祝日には四千二百燭光の電装飾がつくと言ひますから、其時は大變な美しさでせう。橋名を書いたのは徳川慶喜公、即ち十五代將軍で、この橋名「日本橋」の本と言ふ文字に就ては、王羲之書の研究者中村不折先生などと、東京市の學者と、大分議論があつたやうに聞いて居ります。今の日本橋は、初めて日本橋と言ふ橋が出来てから、二十代目に當ると言ふことですが、昔から國內里程の基點はこの橋になつて居ります。

この橋を中心にして、南北の兩方に、つまり東京を代表するやうな大商店が澤山あるので、此處は是非見物しなければならぬ處です。先づ南の方には村井銀行、西川、あかぢ貯蓄銀行、森村銀行、伴傳商店、白木屋、大倉書店、黒江屋漆器店、筆墨商古梅園、丸善株式會社、松屋呉服店等があり、北の方には木屋漆器店、三越呉服店、博文館書店、十軒店の人形店等があると言ふ譯で、茲だけでも見れば、優に田舎への土産話しが出来やうといふ程賑やかです。

●●●兩國橋 玉屋鍵屋の花火や、赤穂義士が吉良の首を取つて引あけに渡つたので、有名なこの兩國橋です。一體兩國橋と言ふのは、

本所にすぎたるものが二つあり
津輕の屋敷兩國の橋

などと言つた位で、本所の名所に入れて見物するのが本當でせうが、便宜上ここでお話しませう。

この名物は夏の花火で、毎年夏の頃に催はされて、川に陸に、非常な人出を見るので、何しろ當日などは夕刻からこの花火見物の人で、橋の上や沿岸の料理店は人の山を築き、川の中は何れも見えなくなる位の船が出ると言ふのですから、大變なものなのでせう。何でもこの花火は、昔から江戸の名物に數へられたのださうで、昔の俗語にも大分花火を詠み込んだのがあります。

この橋は東京五大橋の一つで、昔は木橋であつたのが、明治三十七年、今の鐵橋に架けかへられたので、その以前はこれが下總と武藏の境になつてあつたのださうです。つまり今の本所區が昔の下總で、兩國橋と言ふ名も、ここからつけたものでせう。

新大橋 これは兩國橋と並んで、同じく隅田川の下流大川に架けられてあつて、やはり東京五大橋の一つに數へられて居ります。之れも先年まで木橋であつたのを、明治四十五年に鐵橋に直したので、長さは百十間、東京の鐵橋中では一番長いと言はれてゐるので、田舎にはもつと長い橋もありますが、之れなどは立派で長いのですから、田舎の長い橋を見た人も、一見する價値は充分ありませう。

この橋が何故新大橋と言ふかといふと、元祿六年に初めて架けられた頃は、兩國橋も大橋と呼んでゐたので、それでこの方には新の字を冠させたのだと、東京の老人は話して呉れました。

日本銀行 吾國の銀行の大親分のやうな銀行であります。これは本兩替町にあつて、電車は外濠線に「日本銀行前」と言ふ停留場があります。非常に立派な建物ですから、見

て置くべきでせう。私なごも一生の内には一度でもあの銀行へ預け入れ度いと思ひまして、よく念を入れて見て来ました。さて郵便貯金と違つて五錢や三錢は頂かりませんから、あの門が潜れるかどうか。

●三井銀行

駿河町の三越呉服店のすぐ横にある大建物で、之れも日本銀行の兒分位に當る大銀行です。こゝは特別に見ようと思はぬでも、三越から出ればすぐ目の前ですから、一度東京へ行つたら氣をつけて御覽なさい。日本銀行にも負けぬ大建物です。

●第一銀行

日本銀行や三井銀行が、西洋建で立派なのに對して、此の第一銀行は土蔵造りの日本風です。それだけ銀行と言ふよりは質屋の大旦那のやうな感じがしますが、兎に角見て置く價値は充分ありませう。

●三越呉服店

日本橋を北へ渡つて一丁程の處にあつて、白煉瓦六階建、空に聳えてゐ

ますから、すぐ目につきます。表口は日本橋の大通りに面し、左右に銅製の大獅子が女關番をしてゐます。その又左右は大飾窓、ここに流行の商品を飾りつけて、通行人に見えるやうにしてあるが、之れを一目見たら誰だつて這入らずには居られません。

こゝへ這入るには、別段の料金もいらす、田舎の呉服屋のやうに買はないと嫌な顔をすると言ふやうなことはありませんから、誰でも心安く入場が出来ます。先づ女關を這入ると洋服を着て店の徽章をつけた下足係がゐりますから、之れから一枚の下足札を貰つて上げばよいのです。尤も手荷物を持つてゐる人は、女關に手荷物お預係がゐりますから、其人から又一枚の札を貰つて、この荷物を預かるのです。それから美しい敷物をしきつめた梯子段を上つてもよし、昇降機、自動階段で上つてもよい。昇降機と言ふのは五人でも八人でも定員だけの人が乗ると、電氣の力で二階三階——六階まで自由に連れて行つてくれ

る機械で、自動階段と言ふのは、之れも電氣の力で梯子段が自然と上へ登つて行くと言ふ仕掛になつてゐるのです。

室内は百貨山の如くで、呉服物もあれば下駄もあり、洋服から傘、箆筒、長持、時計、指輪、食料品から筆墨、寫真玩具の類まで、一切合切人間の必要なものは何でも賣つてをります。その外に清雅な食堂、華麗な休憩所があるが、こんな立派な食堂は田舎では一番の料理屋へ行つてもありません。六階の屋上には庭園があつて、ここには四季とも草花が絶えず咲いてゐて、楽しみながら東京市中が一目に見られる。

この呉服店は昔越後屋と稱した老舗、それが明治三十七年に三井呉服店と合併して株式會社に改め、三越と改稱したのだが、今の建築は當時で百萬圓を要したと言ふから、大變なものでもあります。而も最近またその後の方へ今までの建物より少し大きい建物が出来て

ゐるから、この次に上京する時には之れも見られるでせう。又丸の内には、三越別館と稱へて、之れも大きな建物があります。

●●● 白木屋呉服店 三越呉服店と同じやうな百貨店で、これは日本橋南にある大店である。建物は四階建、三越より少し小さいが、その繁昌すること三越と負けず劣らずで、毎日潮の如く客が押しかけてゐる。

この店へ上るにも三越と大差なく、何人でも下足札一枚貫つて上ることが出来るし、買ひ物をしなくとも差支へない。ここは自動階段はないが昇降機はあるから、それで自由な處へ行けばよい。ここにも食堂、休憩室等がありますから、見物中の中食をやるのによいでせう。

白木屋呉服店と言へば、寛文二年の創業、二百六十餘年來の老舗であります。それが今

の陳列式となつたのば明治二十八年、更に今のやうな宏大な建物に改築したのか大正八年、資本金五百萬圓の大會社であります。

この店の階下に白木造りの御堂がありますが、これは白木觀世音と言つて有名な話となつてゐます。何でも昔白木の井戸と言つて、庶民の飲用に供した井戸があつた處、正徳の頃日本橋附近に飲用水が乏しかつた爲め、主人がこの井戸を掘りぬいた處、中から金像の觀世音が出たとかで、それがこの白木觀世音なのだそうです。なか／＼由緒のある觀世音ですから、私は見物、傍、拜んでまゐりました。

松屋呉服店 これは通三丁目の角にある三階建洋館で、百貨店ではなく、呉服物ばかりを專業としてゐます。この店の特長は自分の處で色々な織物を案出すること、それがまたこの信用を高めて居ります。例の東京の上流で流行する磊樂平の袴地なども、

この店の一手販賣で、なか／＼粋な袴地です。

伊勢清呉服店 電車は人形町下車、そこからすぐ側にある堀江町、俗稱てりふり町にある粹客相手の呉服店です。ここは普通の呉服物よりは特別に粹に出來た、江戸向のものが多く、花柳界の人達やこれに關係ある人々はみなここのお華客だと言ふことです。

丸善株式會社 これは東京一の文房具店で、色々な机、本箱やら、萬年筆、インキ、書籍などを賣つてゐます。殊にこの店の特長は外國の書類で、日本の學者は大抵この店から世界の書籍をとりよせさせてゐます。赤煉瓦建三階の洋館です。

水天宮 安徳天皇、建禮門院、二位尼の三方を祀つた神様で、本社は久留米、元は芝の赤羽根の際にあつたのを、明治五年に今の蠟殼町三丁目へ移したのださうです。毎月一日、五日、十五日が縁日で、參詣する人は大變なものです。殊に水商賣、つまり花柳界の

人達の信仰が一番多く、東京の神様で藝妓などの参詣の一番多いのは、この神様だと言はれてをります。又水に縁のある處から、船乗りを稼業とする人の信仰も厚く、殊更戌の年戌の月戌の日のお札は、寶のやうに思はれてゐて、六十年目かこの日が來やうものなら、朝は暗い内から群衆が押しかけて、お札を貰ふのにひしめき合つてゐると言ふ始末です。昨日皆さんの處へお別けしたお土産の中に水天宮様のお札もあるから、よく御覽になつて下さい。

●薬師 これは茅場町で電車を降りると、すぐ側にあります。ここも花柳界の信仰の厚い佛様ですが、それよりもこゝには、宮松亭と言ふ有名な寄席があります。義太夫や東京の落語家の研究會のある處で、斯の道の通人の行く處となつてゐます。

●明治座 久松町で電車を降りると、東の方へ行つた處にある川岸の芝居小屋がこれで

す。元は喜界座、久松座、千歳座などと稱へた芝居ですが、可成り古い劇場です。今の處別に座附の役者と言ふものなく、重に市川左團次などの一座が掛りますが、その時は非常な人氣を呼ぶと言はれてゐます。

●魚河岸 日本橋の北詰にある一廓が即ち江戸での江戸と言はるゝ魚河岸で、毎日午前四時から正午まで市が開かれてゐます。近海遠洋の魚は大抵此處へ集つて來て、市内の各魚屋へ賣卸されてゐるのですが、朝の内の雑踏と言つたら、喧嘩ではないかと思ふやうな騒ぎです。ここは見物しようと思つたのですが、皆な江戸兒肌の氣の早い人達ですから、無暗に間違つてゐると『これ邪魔だ』などと怒鳴られますから、表から中を覗いただけで歸りましたよ。

●株式取引所 兜町 鐵橋の袂にあつて、毎日株式の取引が行はれてゐる處です。次の

米穀取引所と共に、日本橋區の心持を代表するもので、一朝にして富者となり、一夕にして貧者となる、人生の走馬燈のやうな面白い處だと聞いてはありますが、何しろ私共のやうに一寸覗いただけでは、何が何だか譯がわかりません。

●●●●●●●●●●
東京米穀取引所

明治の初めは東京米市場と稱し、後に東京 蠅殼町 米商會所となり、更に明治二十六年に東京米穀取引所と稱へるやうになつたのです。所在地は蠅殼町ですが、此の附近には米穀仲買店が澤山軒を並べてゐます。

●●●●●●●●●●
十間店

ここは昔から名代になつてゐる人形店のある處です。玉翁、久月などと言ふ人形製作師が軒を並べてゐて、毎年五月、三月の節句前には、競つて丹青を凝した人形を並べ、雛や端午を祝ふ人待ちを受けてゐます。平常でも人形が澤山並んでゐますから、是非見物して來る價値のある處です。

この外にも大分見物する處がありますが、なか／＼一日や二日では見物し切れませんが、日本橋は此の位にして、次の京橋區のお話に移りませう。

京 橋 區

京橋區と言へば、宮城から眞直に東へ向いた處で、一方は海に面してゐるから、なかなか變化のある處です。銀座通りを中心にして、日本橋通りにも劣らぬ繁華な土地があるかと思ふと、築地舊居留地のやうな閑雅な土地もあり、又月島のやうな海を眺められる土地もあり、見物して歩いてゐても、目が疲れてかなはぬと言ふやうなことはありません。

此處でお話するに足るやうな處は、(一)有名な街方では銀座通り、(二)芝居では歌舞伎座、新富座の二、(三)呉服店では高島屋呉服店、(四)佛様又は神様では西本願寺、住吉

神社の二、(五)料理店又は遊興地では精養軒、新橋藝妓屋町の二、(六)皇室關係では濱離宮、(七)大きな建物では第一生命保険相互會社、星製藥株式會社、服部時計店の三、(八)官衛では遞信省、農商務省の二、(九)學校では海軍大學等、其他この區内には新聞社が澤山あるから、これ等は常識を養ふため、一見して見てもよいでせう。

銀座通り 此處は徳川幕府の時、銀貨を鑄造し、又通用の銀貨を検査する處があつたと言ふので、この名前があるのです。銀座通りと言ふのは京橋から新橋までの間を言ふので、明治五年に市區改修してから、家屋を煉瓦造りと定め、政府が建築して市民に拂下けられたので、一名銀座の煉瓦道などと言つた頃もあるさうです。今では兩側に立派な家屋ばかり出来てしまつたので、政府で拂下けた家などは見榮えがしませんが、昔は随分珍らしがつたものでせう。毎日この通りは電車、自動車、人力車などが繁く往來して、目まぐるし

い程です。夜になると夜店が出ますが、夜の人は又格別の味があると言つて、よく遠くからまで出かけます。又この銀座の晝は、附近の商店會社の事務員が、食後の散歩をしますが、之れを稱して「銀ブラ」と言ふのさうですが、面白いぢやありませんか。

この街で一才東京の人の興味をそゝつてゐるのは、尾張町の四つ角にあるカフェーライオン、もう少し新橋の方へ寄つた横町のカフェーパウリスタ等です。ライオンの方は美しい女給がゐるので、東京の若い文士畫家連が毎日集り、パウリスタの方は安いので附近の會社員などが晝食に行くのだと言ひます。それから皆さんにも差上げたお土産のパンぢゅう、あれも尾張町から木挽町へ曲ると直きの處にあるのです。

歌舞伎座 東京一の大歌舞伎の掛る處で、芝居としての資格は帝國劇場より上になつてゐるのがこの歌舞伎座です。明治二十六年、福地櫻痴居士の首唱で建てられたのさうで、

當時は名優市川團十郎、尾上菊五郎、市川左團次などを座附の俳優だつたのですが、今では中村歌右衛門、片岡仁左衛門、市村羽左衛門などが主となつて居ります。勿論普通は舊派の芝居が主ですが、時には伊井蓉峰、河合武雄、喜多村縁郎などと言ふ、新派の巨匠がかかることもあり、また新劇、活動寫眞などが掛ることもあるらしい。電車は木挽町で降りれば、すぐ停留場の前ですが焼けて改築中です。

新富座 これは電車を新富町で降りると、その前にある素木造りの大劇場です。この座は寛文の頃、木挽町に開場し、其後森田座、河原崎座、守田座と改めて、後に今の處へ移つて新富座と稱へるに至つたのでありまして、東京でもなかく、由緒のある劇場ですが、今でも歌舞伎座の次位に位する大劇場とされてゐます。今では座附の俳優と言ふものはなく、時々市川左團次一派やら、大阪から中村雁次郎などが出京して掛りますが、人氣

は歌舞伎座に次ぐ位でせう。

たかしまや呉服店 中橋廣小路で電車を降りて、少し京橋の方へ向つて行くと、東側にある日本風の陳列式商店であります。三越白木屋などと違つて、こゝはまた純京都式の呉服専門店で、外の雜貨は販賣しません。それだけまた織物、染物、刺繍などの信用あることは一番でせう。何でも現在の京都本店は四代目で、初代は天保年間に江州高島から京都に出て、呉服太物商を始めたのだと言ひますから、由緒のある店には遠ひありません。ここの名物は店頭飾窓で、毎月一回名人の作にかゝる人形へ、自店製の衣服を着せて出してあります。

本願寺別院 所謂築地の御坊と呼ぶお寺で、電車は築地本願寺前と言ふ停留場があります。本堂は数度も炎上して、明治三十四年に今の殿堂が出来したのであつて、梁間二

十間一尺八寸八分、桁行二十一間二寸八分と言ふから、本堂としては大分大きな方に屬するに違ひありません。

この地内には、盲人の學校があつて、按摩術、マツサージ術、鍼術を教へて居り、授業時間内は無料で療治して呉れますから、見物に疲れた人は、一寸立寄つて一揉み揉んで貰ふのも妙でせう。私も一寸やつて貰ひましたがね、東京ほど重寶な處はないと思ひましたよ。

住吉神社 川を一つ越えて向うの佃島にある神社ですが、毎年の祭禮には、御輿が出て大變賑はふのだと言ひます。

精養軒 これは歌舞伎座の前で電車を降り、一寸東へ行つて川岸を南へ這入つた處で、帝國ホテルと並び稱せらるゝ西洋料理店兼ホテルです。毎日何々伯爵の結婚披露會とか、

何々子爵母堂の金婚式とが、さう言ふ宴會で門前は自動車が並んで居ると言ふ有様、流石は東京だなアと肯かせます。

新橋藝妓屋 これは見物するやうなものではありませんが、新橋藝妓と言へば日本中で一流藝妓ですから、一寸お話しして置きます。この藝妓屋は重に銀座通りの西裏の方にあるのですが、そんな處を一々覗いて歩いてみると、下駄渡ひか空巢ねらひと間違ひられますから、夕方の新橋邊を散歩してゐれば、自然お座敷通ひの藝妓を見ることが出来ませう。私もさうして藝妓大明神のお姿を拜觀して來たのですが、皆さんも東京へ行つたら、一つこれを試みて御覽なさい。

濱離宮 毎年彌生の頃に、内外の臣僚を召して、觀櫻の御宴を開かれるのが、この離宮であります。處は京橋區の南端、潮入の濠を隔てて向ふに見える處で、周圍は石垣高く

海軍大學 築地に所在する海軍の大學であるから、築地舊居留地見物傍、此處へも廻つて見るがよろしいでせう。

築地舊外人居留地 慶應三年から明治三十六年まで、外國人はこの居留地に置かれたものであります。それが三十六年諸外國と對等條約が出来てから、内地雜居が許されたので、外國人のみの住居とは限らなくなつたが、それでもまだ外國人の住居が一番多い。東京の人の話しによると、この街は丁度外國の郊外へ出たやうな感じがあるさうですが、赤煉瓦の塀に蔦などのからんだのを見ると、成程さうかとも思はれます。こゝは教會堂などの建物が多く、夕方など通行すると、夕方の祈禱をする鐘の音が、悲しげに響いて來ます。その鐘の音、教會の灯の色がいゝなどと言つて、東京の人は之れを築地情調などと稱へてゐます。さう言へばよく詩人とかの作る詩を讀むやうな、妙に感傷的になる處があり

ますが、これがつまりその情調とか言ふものなのでせう。

これ等の外に区内には讀賣新聞(銀座一丁目)、時事新報(南鍋町)、やまと新聞(卅間堀)(萬朝報、(弓町)、中央新聞(山城町)、國民新聞(日吉町)、朝日新聞(瀧山町)など、東京十五大新聞の幾つかでありますから、時間の都合でこれも見物する價值がありませう。私は丁度夜分になつてゐたので、見物せずに宿へ歸りましたが、聞く處では流石東京の新聞だけに、その規模の宏大なこと、大變なものだと言ふことです。

芝 區

芝區と言へば、『芝で生れて神田で育ち』と言ふ有名な俗語がある位ですから江戸見の本場とも言ふべき神田とは、甚だ由緒の深い處に違ひありません。また茲は『芝山内を出る

と東京市中を見晴しに出来ます。

東照宮

贈正一位太政大臣徳川家康公を祀つたお宮で、元は駿河國久能山に祭つたものであります。下谷區上野公園にもあるが、それはこの芝のよりは大きいと言ひますが、

増上寺

關東に於ける淨土宗の總本山であります。先年火災によつて失はれた本堂は

桁行三十五間、梁間三十間であつて、大層立派なものだつたと言ひます。

徳川家靈廟

徳川時代の建築美術の代表的のものとも言ふべき好建築で、ここには二代將軍秀忠公、六代將軍家宣公、七代將軍家繼公、十二代將軍家慶公、九代將軍家重公、

十四代將軍家重公の靈が祀つてあります。

芝大神宮

これは宮本町にある大神宮ですが、序と言つては悪いが、參詣して來るの

もよいでせう、

琴平神社

日本橋蠟殼町の水天宮と同じやうに、花柳界の參詣最も多い神様で、讃岐の琴平神社から大物主神、崇徳天皇の二座の分靈を勸請したものださうです。毎月十日が

縁日で、當日は商人などが出て、大變に賑はひます。

泉岳寺

これこそ東京見物に行つて、見逃してはならぬ、赤穂義士の墓のあるお寺です。電車は泉岳寺前で降りますから、茲で降りるとすぐ「赤穂義士の墓」と言ふ文字が目

につきます。これを這入ると兩側に義士に因んだ色々な土産物——それ皆さんにも差上げ

た——あれを賣つてゐますが、それを見ながら行くと樓門があります。中には義士の遺物

展覽會があり、天野屋利兵衛の墓があり、淺野長矩の墓があり、首洗ひの井戸があり、赤

穂義士が討入當時の有様が、髣髴として浮んで來ずにはありません。四十七士の墓石は、み

な二尺餘の粗造りで、中に大石良雄と大石主税の墓だけに屋根が設けあるが、みな香華のたえたことがないやうです。又墓の門から左へ降りると、義士の木像堂がありますから、之れを拜めば各々の赤心がありくと見える心地がいたします。

●東禪寺

泉岳寺より南へ三つ目、電車を東禪寺前で降りると、すぐ側の禪寺です。大分大きなお寺ですから、泉岳寺の歸りに立寄つて拜むのもよいでせう。

●攻玉社

海軍軍人で有名な人は、多くこの攻玉社出身で、元近藤眞琴が開いた學塾であります。近藤眞琴と言ふ人は、徳川時代に幕府の海軍操練所翻譯方を命ぜられた洋學者また和學者で、明治になつてからも海軍の事に大分盡した人です。この學校の元は築地にあつて攻玉塾と言つたのですが、後にここに移して今では攻玉舎中學校となつてゐます。

●慶應義塾

福澤諭吉翁が創設した學校で、小學校から大學まで、總てを具へた大規模な學校です。處は三田通りの高臺で、赤煉瓦の建物がよく見えます。この學校の特長は生徒に上品なハイカラが多いのと、野球の名手が揃つてゐると言ふことでせう。

●田村町の大銀杏

今は町家になつてゐる田村町に、昔、淺野内匠頭が切腹を命ぜられた、田村右京の屋敷があつた時代からあると言ふ、雲つくばかりの大銀杏です。何でも淺野内匠頭は、この銀杏の下で切腹したと言ふ傳説で、大分有名になつてゐますが、それはどうだか解りません。電車は愛宕町下車。

●新橋驛

昔東京驛が出来なかつた頃は、東京の東立關たる大停車場であつたのですが、今は場所を變へて、途中の小驛となつて居ります。尤も小驛と言つても、田舎の驛のやうな貧弱なものではありません。立派な、そしてハイカラな赤煉瓦造りの建物で、

乗り降りには相變らず頻繁であります。そして、元の新橋驛の方は、そのまま貨物専用の停車場として、潮留驛の方へ譲つてしまひました。

芝離宮

昔は紀州侯のお屋敷であつたのを、後に有栖川宮のお邸となり、更に離宮となつたので、日本館、洋館を具へて、善美を盡した構へであります。敷地は三萬坪、場所は芝濱松町です。外國から來た貴賓は、大抵ここを旅館と定められます。

高輪御所

電車は伊皿子で降りるとすぐです。

竹田宮邸

高輪南町にあり、電車は品川停車場前で降ります。

赤十字社

芝公園内にあります。

和蘭公使館

榮町にあり、電車を神谷町か西久保八幡町で降ります。

芝區見物の話しはこの位にして、次は麻布の方面へお話しを向けませう。先づ一服や

らして頂きます。

麻 布 區

麻布區には、これと言つて見物する處はないやうです。ただ麻布で最も有名なものと言へば、歩兵三聯隊があると言ふことだけで、其外には名所として耳にした處もありません。が、それでも見物序で見物して廻りましたから、その一端をお話ししませう。が、別段特別にお話し申すこともありませんから、その所在地名だけに止めて置きます。

麻布御用邸

これは市兵衛町にあります。

東久邇宮邸

これも市兵衛町、電車は飯倉片町か狸穴町で降りるとちぎです。

歩兵三聯隊

これは電車が三聯隊裏と言ふ處で停車します。

善福寺 これは二の橋で電車を降りると、山元町と言ふ處にあります。維新前米國公使の使館となつたお寺です。

仙華園

これもやはり二の橋で降りると、竹谷町と言ふ處にあります。

この外に若し見物しようとするれば、府下の目黒町へと杖をひいて、目黒不動と祐天寺とを見物するのですが、短い時間でそれも出来ませんでしたから、お話しすることが出来ません。大分佳い處だと言ふことですから、若し皆さんの内で、東京見物に出かける人があつたら、是非見物して來るがよいでせう。

赤坂區

赤坂と言ふ區はあまり印象に残らない名前ですが、天下の名妓春木萬龍のゐた處だと言

へば誰でも「はアさうか」と言かれる程知れわたつて居ります。又一方から言へば、青山練兵場がある處から、區の名前よりは青山と言つた方が、解りがよいかも知れません。昔から、「處は青山何とかの、鈴木主人と言ふ武士は」てな俗語で、大分人の耳に馴れた處です。又最近にはこの青山に近い代々木の原に畏くも、明治天皇陛下の御靈を祀つた明治神宮が出来たので、一層この土地は人に知られるに至りました。一體がこの區は屋敷町、あまり人の見物や日用には遠い處ですが、東京ではこの邊を山の手と言つて、尊敬の意にも輕蔑の意にも用ゐます。

この所謂山の手青山で見物する處といへば、先づ(一)氷川神社、(二)豊川稻荷、(三)青山練兵場、(四)陸軍大學、(五)近衛三聯隊、(六)米國大使館、(七)青山御所、(八)赤坂離宮、(九)東伏見宮邸、(十)乃木大將遺跡、(十一)青山墓地等でせう。

氷川神社 電車を赤坂溜池で降りて、西南の方へ大分行つた處にある、可成り由縁の深い神社であります。町名は氷川町。

豊川稻荷 電車は赤坂見付から西南へ二つ目、豊川稻荷前で降りると、豊川稻荷であります。このお稻荷様も花柳界の信仰あつく、毎日赤坂の花柳界あたりから日参するものが、非常にあると言はれて居ります。私の見物してゐる時も、辨天様がお稻荷様を訪つれ遊ばしたかと思ふやうな艶な姿を澤山見ましたから、これは如何様本當でせう。何でもこのお稻荷様は、文成年中三河國豊川より勸請したのだと言はれます。

青山練兵場 毎年の大觀兵式の行はれる、廣大なる練兵場です。見渡す限りの大廣場で、昔は狐狸などがゐると言ふので、よく怪談などに拵へられてゐます。先帝陛下がお崩れになつた時、又皇太后陛下が御崩れになつた時、その御靈輦を送り奉つたのは、この練兵場

でした。電車は青山一丁目又は三丁目下車。

陸軍大學 青山一丁目で電車を降りると、青山練兵場の一角にあるのが陸軍大學であります。この學校は陸軍の軍人が、將官に出世の出來ると言ふ學校で、生徒はみな將校ばかりです。

近衛三聯隊 三聯隊は近衛旅團司令部と共に、新町(電車山王下下車)にあります。

米國大使館 電車は葵橋下車、榎坂町にあります。

青山御所 英照皇太后の御座所であつたのが、後に照憲皇太后の御座所となり、更に皇太子殿下の御所となつたので、純日本風の高雅莊嚴な御所であります。電車は表町下車。

赤坂離宮 昔は紀州の藩主徳川大納言の邸であつた處、この御所の中には、西洋風の大宮殿もあります。毎年十一月には此の御所で觀菊の御宴が催はされると言ふことです。

●東伏見宮邸

電車は葵橋下車。西南へ四五丁行つた處にあります。

●乃木大將遺跡

明治天皇御崩御の御跡をしたひて、遠く雲の上まで御供奉申上げた、乃木大將の家敷跡は、今もなほ昔のまゝに保存されてあります。東京見物に行つたら、こればかりはどんなことがあつても拜觀して來ねば日本人の内に這入りますまい。邸のあるのは新坂町で、質素な門を這入ると正面女關から、夫妻の居間、修養室、愛馬の小屋等、少しも昔の姿を傷けてありません。何でもこのお邸は今も東京市の公有物で、忠烈乃木大將を偲ぶ、後の好資料として、永遠に保存される筈だと言ひます。どうぞ永劫未來、このお邸を残して、日本人の魄の立替への参考にし度いものです。

●青山墓地

乃木大將の墓のあるのは、この青山墓地です。處は青山南町、青山三丁目で電車を降りると直ぐですから、大將のお邸跡を拜觀したら、この墓所へもおまゐりす

る必要がありません。又この墓地には、小説「不如歸」の主人公「浪子」のモデルであると言ふ大山のぶ子(大山元帥の令嬢)の墓があり、其他知名の人の墓所が澤山ありますから、それ等の人々の墓前へ、一本の香華を手向けるのも、自分の修養の爲め、無益でもありません。

明治神宮のある代々木の原は、青山から行くと十五分か二十分の處です。これは東京府下に當りますので、此處には書きませんが、別に府下の部へ書いて寫眞を添へて置きました。

四谷區

四谷方面にも、これと言つて見物すべき處はありません。ただ新宿御苑と須賀神社は拜

観又は参詣すべき處でせう。

新宿御苑 皇室の植物御苑です。内藤町ですから電車は新宿で降りると遠くはありせん。

須賀神社 これは須賀町ですから、電車は傳馬町二丁目で降りるのです。

牛 込 區

牛込と言ふよりは、早稲田大學と言ふ方が、人の印象に残つてゐる處で、ここの勢力は早稲田大學の牛込なのか、牛込の早稲田大學なのか、殆んどわからぬ位です。一區さながら學者と學生と月給取との住居で、見るべき處も澤山ありません。

先づ其中から見物すべき處を挙げると、(一)神社では市谷八幡、築土八幡、赤城神社、

高田穴八幡の四、其他は早稲田大學、大隈邸、神樂坂等でせう。

市ヶ谷八幡 これは市ヶ谷見附で電車を降りるとちきですから、是非立寄つて参詣する必要があるとあります。可成り大きな神社です。

築土八幡 電車を築土八幡前で降りると、すぐ見上げるやうに石段のある神社がそれです。周囲が町家になつてゐるので、外からはあまり見榮えもしませんが、この石段を登つて見るとなかく、風趣があります。

赤城神社 肴町(神樂坂)で電車を降りて右の方へ登つて行くと、一寸右へ這入つた處にあります。所在町名は赤城元町、なかく立派なお宮です。

高田穴八幡 これは穴八幡と言ふよりは、高田の馬場で有名になつてゐる、あの堀部安兵衛仇討の舊跡です。芝居や浪花節で可成り有名になつて居りますから、是非参考のた

めに見物して置くのですね。

早稲田大學

慶應義塾と共に、日本の大學中でも、秀才を出すので有名な大學校です。尤も慶應の方は實業界での才人を出すから金満家が多く、早稲田の方は文學者での天才を出すから貧乏人は多いのですが、特色に於て優に對立する大學です。大隈侯の經營にかゝるもので、ここ出身の文學者は、早稲田派と言つて文壇でも重きをなしてゐます。

大隈邸

早稲田大學に接する處にあり、非常に廣大な邸宅であります、其庭園の如きも、非常に広いものですが、日本での民主的政治家と言はるる大隈侯のことですから、色々な公共團體の會合には、この庭園を開放するさうです。

神樂坂

牛込區で一番賑はふ土地です。殊に夕刻よりは非常な賑はひで、銀座の夜にもまがふべき有様を呈すると言ひます。カフェー、寄席、などがありますから、夏の夜は

殊更の賑はひでせう。又この神樂坂は、所謂神樂坂藝妓なるものがあつて、非常に繁昌すると言ふことです。成程さうでせう。ぶらぶらこの街を見物して歩いてゐると、露次くこの角に「御待合何々」「御料理何々」などと言ふ軒燈を澤山見ますが、あの澤山な待合料理店が生活を立てる位でですから、繁昌することには違ひありますまい。さても世の中は、女ならでは夜も日も明けぬと見えます。

小石川區

この區で見ると言へば神社佛閣に白山神社、傳通院、護國寺があり、其他は白山公園、砲兵工廠、後樂園、植物園、江戸川の櫻位なるものです。

白山神社

これは白山公園の傍にある神社で、電車は白山下車です。

傳通院 この傳通院と言ふ寺名は、徳川家康公の母堂の戒名であつたのを、そこへ葬つたが爲めに寺名となつたのだと言ふことです。淨土宗のお寺で、東京では名高いお寺になつてゐます。今の殿堂も大分立派ですが、先年炎上した殿堂はもつと立派で、東京の建築物での上々のものであつたさうですが、遺憾ながら焼けてしまつては見物することも出来ません。今の殿堂は前のに較べては立派ではないと言ふものの、それでも見物人の目を驚かすには充分です。

護國寺

大塚窪町で電車を降りると、西南の方にあたりて、この護國寺があります。

ここには例の七卿落で有名な三條實美卿の墓を初め、其他の名士の墓が澤山あります。この寺の東の方に當る岡は即ち豊島岡で、ここには皇子、親王方の御墓を拜觀することが出来ます。それから先年大塚先儒墓所保存會の管理になつた柴野栗山、尾藤二州、古賀精里

室鳩巢など、先哲の墓所は、この寺の後方にあると云ひます。

柴野栗山、尾藤二州、古賀精里に室鳩巢等は、徳川幕府の儒官で、幕政にまた當時の學問に、非常に功のあつた人々です。

白山公園

白山前町にある小公園ですが、日曜などには大分賑はひます。

砲兵工廠

もとは水戸侯の邸跡で、富坂から小石川橋まで、すつとつきぬける程大きな敷地の中にあります。ここは我軍隊の銃砲類を製造する處で、中には大築中將の銅像があります。

後樂園

砲兵工廠の裏手にある舊水戸侯の家敷跡で非常に幽邃閑雅な處です。

植物園

面積四百九十餘坪の場所に、池あり、山あり、洋の東西を問はずあらゆる植物を集め植えてある處で、参考にもなり、目の保養にもよい處です。日曜などは學生やら

子供連の夫婦やら、澤山人出があつて、なか／＼賑やかです。かう言ふ處は田舎から出た人々には、あまり面白くもないが、参考になるやうな植物は澤山ありますから、見物して置いて損はありません。ここは昔白山御殿と稱せられ、五代將軍綱吉公が住はれた別荘であつたが、今は帝國大學理學部に屬してゐます。

江戸川の櫻 江戸川と言つても井の頭から神田川へ落る、川と言ふ程大きなものではありませんが、この中流、石切橋邊から大曲邊までは、兩岸に澤山の櫻があつて、春毎に人の目を喜ばせてゐます。今は街中となつてゐるので、風趣雅味はありません。

本郷區

本郷區と言へば直ぐ帝國大學を思ひ出します。それだけ學生も多く、學生相手の下宿屋

が非常に多い所です。こゝはまた老人には、大學と言ふよりは振袖火事で有名な八百屋お七で有名な處で、小説や芝居では知らぬ人はない位です。

この區で見ると言へば、先づ(一)神社佛閣では湯島天神、妻戀稻荷、根津權現、麟祥院、本妙寺、吉祥寺の六、(二)學校では帝國大學、第一高等學校の二、(三)其他では湯島公園、東京教育博物館、舊聖堂等でせう。

湯島天神 江戸城主太田道灌が、菅原道實の靈を勧請したと言ふ、古い由緒のある神社で、廣重の江戸錦繪などに寫されて、有名な社になつてをります。幕府の頃には湯島の千兩富があつた所、お老人のなかには、富の立つた處として知つてゐる方が大分あるでせう。電車は湯島天神下車。

妻戀稻荷 これも有名なお稻荷様で、電車は明神前下車です。

根津權現 なかく古い社で、また大規模な構へを持つてゐます。電車は根津八重垣町で降りて、南の方へ這入ると右側で、大きな石の鳥居を潜ると、娯樂園と言ふ貸席があります。ここで俳諧や歌の會があるので、なかく風流な處とされてゐるのに違ひありません。

麟祥院 春日局の靈を葬つてあるので、有名なお寺です。俗にこの寺のことを根穀寺と言つてゐますが、多分昔はこの寺に根穀が澤山あつたのでせう。本堂の内には春日局の木像がある、臨濟宗の大寺であります。

本妙寺 これが振袖火事のあつた有名な寺で、この火事のあつたのは明暦三年、二月の半ださうです。火の手は三日に亘つて飛火し、江戸の三分の二程は焼き抜いたと言ひますから、その大火事であつたことは想像するに難くはありません。當時は消防も今程進歩

してゐませんでしたから、この火事の爲めに死んだ人が十萬何千人とかあつたのだと言ふことで、それを葬つた處が本所の回向院、今の國技館の後ろにあるお寺です。

吉禪寺 ここは又、八百屋お七の芝居のために、名高くなつたお寺です。實説によるとお七のことは、大分芝居とは違ひますが、兎に角芝居やからくりでお馴染みの處ですから、見物して置く必要があります。電車は吉禪寺前で降りると、すぐ山門があります。

帝國大學 昔は前田侯の邸のあつた處、朱塗の門のある處から、俗に赤門大學と呼んでをります。構内の總建は十萬餘坪、これが醫科、文科、法科、理科、工科、商科等と、各學問の分科に分れてゐて、日本で最高の學問を授ける處です。又この大學の構内には、有名な大學病院があります。ここは無料で博士や學士達が診察する病院なので、患者は毎日朝の暗い内から押しかけてゐる始末です。電車は大學正門前下車。

●●●●●●●●●●
第一高等學校

今の帝國大學の隣にあつて、昔は水戸侯の下屋敷だつたさうです。こゝは大體へ這入る豫備校のやうなもので、中學を終へてからこの學校へ這入り、それから大學へ這入つて學士となる譯です。この學校の特色は毎年催はされる紀念祭で、この日は色々無邪氣で滑稽な餘興や飾物があり、東京では一つの名物としてゐます。またこの學生の風俗は、例の蟹風を以て聞えて居り、弊衣單袴、一高の寮歌を歌つて歩くと言ふなかく奇抜な學生が揃つて居ります。

●●●●●●●●●●
湯島公園

これは大きな公園ではありませんが、湯島天神のある處です。

●●●●●●●●●●
東京教育博物館

湯島二丁目の、舊聖堂の内にある洋館で、覽校の參考資料や、成績品などを陳列展覽する處です。又時には色々な展覽會などがあつて、社會事業の奉仕をします。

●●●●●●●●●●
舊聖堂
こゝは昔日本風教の本尊であつた昌平黄の聖堂で、なかく古風な、莊嚴な構へです。黒漆塗の門があり、由緒のある門額などが揚つてゐて、なかく参考になる處です。

下 谷 區

貧乏はしても下谷の長者町

上野の鐘のうなるのを聞く

と昔から歌はれた位で、この區には金持よりは風流に遊ぶ人が多く住んでゐたと言ひます。まづ根岸から谷中、日暮里の里、さながら風流人の村をなしてゐたと言ひますが、今は殆んどその傳がありません。それでもすつと奥へ行くと、畫家や文士が澤山住んでゐる

ますが、それはもう東京府下で、下谷区内には其影を止めぬでせう。

この區で見物すべきものといへば、(一)公園では上野公園、(二)神社佛閣では東照宮、
兩大師、凌雲院、清水觀音、寛永寺、不忍辨天、大佛の八、(三)大きな建物では博物館、
圖書院、美術館、表慶館、動物園の五、(四)學校では美術學校、音樂學校の二、(五)銅像
では小松宮銅像、西郷隆盛銅像の二、(六)料理店では精養軒、常盤華壇の二、(七)呉服店
ではいとう松坂屋、(八)芝居では市村座、その他下谷藝妓等でせう。

●●●上野公園

園内の廣さ、二十何万何千坪と言ふ大きな公園です。東京で一番大きな公
園だと言ひますが、ここだけ見て歩いて一日は充分かゝりますから、成程さうかも知れ
ません。上野の停車場を降りると、すぐがこの公園の入口で、向つて右の方が櫻ヶ岡、山
王臺、左に見下すのが不忍の池です。上は櫻ヶ岡、山王臺から竹の臺、清水臺へかけて東

京名物の櫻が澤山あり、下は不忍の池を廻つて下谷藝妓の住居と、料理店、待合が澤山あ
ります。そしてこの公園の中に様々見物すべき處があり、若し園内の見物に飽きたら、山
王臺から東京市中の家根を、見下すことも出来ると言ふ、まことに結構な處です。先年の
文部省展覧會へ、小糸源太郎と言ふ洋畫家が「屋根の都」と言ふ題で出品して好評を博し
たのは即ちこの山王臺から見た東京市中の光景だと言はれてゐます。

この公園は毎日澤山の遊藝人があつて、物日のやうな賑はひを呈してゐますが、殊に日
曜などになると、東京市中の學生やら勸め人やらが、一週の勞を休めに出来て來ますか
ら、まるでお祭りのやうな騒ぎをいたします。まア東京第一の公園ですから、麴町區の日
比谷公園、芝區の芝公園と共に、足非見物する價値は充分あります。

●●●東照宮

こここの東照宮は、上野公園の中にあつて、諸國の大名から献納した石燈が並

んでゐるので、なか／＼面白うございます。社内に五重塔、水屋、神樂堂あり、横手を降りると不忍池へ出られます。社殿は非常に立派なもので、金光燦々と輝いてゐますから、一見参拜するの價値は充分ありませう。

●●● 兩大師 これは公園の入口を眞直に博物館へつき當り、右へ折れて一丁程の處にあり
ます。

●●● 凌雲院 櫻ヶ岡にあり、附近には凌雲橋と言ふ陸橋があります。

●●● 清水觀音 公園の入口から右の方の石段を上つた處にあり、京都の清水寺に似せて造つたものだと聞きましたがどんなものですか、大して大きなお堂でもありません。この清水寺の邊には秋色櫻と言つて、なか／＼由緒のある櫻があります。秋色櫻と言ふのは昔日本橋に住ふ町人の娘秋色か、一井の端の櫻あぶなし酒のよひ」といふ發句を吟じた櫻

で、後學のため見て置く必要がありませう。

●●● 寛永寺 昔關東一と言はれた大伽藍のあつたお寺です。彰義隊の戦に焼けましたが今でもなか／＼立派なことは立派です。先年この寺の傍へ坂が出来た時、その坂上にペーリンと言ふ化粧品の問屋で、博仁房と言ふのがあつて、ペーリン坂と命名したことがあります。そして坂の中途の電柱へ、

これやこの博仁房の片はとり

ペーリン坂と人は言ふなり

と書きつけた爲め、寛永寺と一悶着起しましたが、今ではこの坂は寛永寺坂となつてゐます。

●●● 不忍辨才天 これは不忍池の中にあります、不忍池といふのは、琵琶湖に似せて作ら

れた池で、其真中に竹生島に似せたと云ふ小さな島があります。その島にあるのが不忍池才天で、已成金と言ふお守を下け渡すので、水商賣の人の信仰が厚いと言はれております。この不忍池を真中から二つに横切つて、石の橋が架つてゐますが、これが東京勸業博覧會の折に架けられた観月橋です。

大佛 奈良の大佛様に比べたら、あまり大きな佛の方でもないかも知れませんが、それでも見上げるばかりの大入道が、緑の葉蔭から出てゐる處は上野の山の名物でせう。この大佛の傍に鐘樓がありますが、今でも朝夕にはこの鐘を鳴らします、「貧乏はしても下谷の長者町、上野の鐘のうなるのを聞く」と歌つた鐘は即ちこれで、朝夕にならすこの鐘の音に、森の鳥が群れ立つ處は、東京での眺めだと言はれてをります。

帝室博物館 本邦の歴史、工藝、美術に關する、様々な珍品を納めたもので、この中

には國寶に價するものが、數へ切れぬ程あると言ふことです。私も參考の爲め見て來ましたが、何某の用ゐた鐘、何某の描いた屏風、何某が鍛へた刀、とても見て歩きながら忘る程、珍しい品が澤山あります。

表慶館 これは今上陛下が皇太子であらせられた頃、妃殿下との御成婚を紀念すると言ふので、建築されたものです。

帝國圖書館 日本で一番大規模な圖書館です。何でも大抵な本はみなこの圖書館に納めてあると言ふ話して、毎日學生やら學者やらの閱覽者で満員です。殊に各學校の試験前となると、この圖書館の繁昌は一通りなものではありません。

美術館 これは本當は竹の臺陳列館と言ふのですが、年中この館内で繪やら書やらの展覧會があるので、美術館と言つた方が知られて居ります。毎年秋に帝國美術院を初め、

二科會 美術院の繪畫展覽會の開かれるのは即ちここです。

動物園 水陸様々な動物を飼育する處で、敷地は七千餘坪、中には日本産の動物を初め、南洋、印度、アメリカ、地球上至る處の動物が飼はれてあります。中でもこの動物園での愛嬌者は、河馬とラクダと猿で、毎日見物人の子供を相手に、友達のやうになつて遊んで居ると言ふ有様、東京見物に行つたら、是非見なければなりません。

美術學校 日本に於ける美術方面唯一の官立學校で、西洋畫科、日本畫科、圖案科、彫刻科など、色々な分科になつて居ります。先年の帝國美術院展覽會に「霹靂」を描いて天才の名を馳せた、片田徳郎畫伯などもこの學校の出身です。この學校の特色は、生徒の多くが髪の毛を長くしてゐる事で、學校の退け時刻に上野公園などをぶらぶらしてゐると、よく赤や青の繪の具のついた服を着て、箒のやうに髪を長くしたこゝの生徒に出逢はない

ことはありません。

音樂學校 美術學校と相對して、音樂の方面での唯一の官立學校です。これは上野公園の裏手に當つてをりますから、公園から裏の方へ抜けてゆきますと、よく學校で鳴らすピアノの音などが洩れ聞えて來ます。青葉若葉の中から、ピアノ、オルガンの音の聞えて來る氣持は、東京でなければ經驗の出來ないことです。上野公園に遊んだら、是非裏手から音樂學校の方へ出て見るのです。

西郷隆盛銅像 この銅像は公園の入口から、右側に見える石段を上ると、すぐ右手にあります。西郷翁は鹿兒島藩の人、この人の功勞に就ては、誰も御承知の事故省きますが、年少の頃からなかく逸話の種を持つてゐた人です。その初めて江戸に來た時の、水戸藩の藤田虎之助を尋ねて、その留守中に家の柱を瑕だらけにしてしまつたと言ひます。何て

も其時は藤田虎之助とは初対面ださうですが、宮中の御用があつて、尋ねて来た西郷吉之助を家に待たせて置いて出仕した處、その留守中の退屈まぎれに、家の柱を削つたださうです。而もそんな悪戯をしてもなほ平氣で書寢をしてると言ふことですから、西郷其人の人となりもよくわかりませう。この西郷翁の銅像は、はかく立派なものです。この頃は心得違ひの者がよく悪戯に噛み腐らした紙玉などを投げつけて、銅像の風致を害してをるので、私共見物人は、まことに不快に思はれます。

小松宮銅像 孝仁天皇御養子、伏見宮一品邦家親王の第八子、小松宮彩仁親王の御銅像であります。場所は東照宮の入口の處にありますが、馬に召された御姿は、まことに勇々しく見奉ることが出来ます。親王は維新の大業に力を盡された方、又軍務の傍殖産興業に意を傾けられた方で、なかく吾國のために尊いことをなされました。御墓は小石川

區音羽護國寺豊島岡にあります。

精養軒 京橋築地にある精養軒の支店です。支店とは言ふものの規模はこちらの方が大きく、場所が場所だけに庭園なども充分設けてあつて、少しく風流を好む會合は却つて本店の築地よりはこちらの方で行はれます。ここの庭園の躑躅は、また一つの名物で、盛りの頃にはわざと見物に来る者がどの位あるか知れません。

常盤華壇 西郷翁の銅像近くにあつて、精養軒に對する日本料理店の優なるものです。家も大きく庭も廣く、昔ながらの日本の禮式を重んじるので、純日本式の婚禮などは、大分ここで行はるさうです。

松坂屋呉服店 明和五年に初めて上野廣小路に開業してから、百五十餘年の歴史を有する老舗です。尤も昔ながらの家の方は倉庫及事務室にして、今では赤煉瓦西洋建の陳列

式店舗となつてゐますが、其營業振の堅實を以て知られて居ります。店舗は上野公園から少し東南へ寄つた處で、三越、白木屋などと同じく、見物だけに這入つても差支へありません。階上には休憩室あり、食堂あり、呉服以外の商品も賣つて居りますから、なか／＼重寶な店です。

●市村座

昔、中村座、猿若座などと言ふ芝居のあつた時代には、之等と共に三芝居と唱へられた有名な芝居ですが、今では二座ともなくなつて、市村座だけしか残つてをりません。舊劇専門の若手俳優一座で、先年まで中村吉右衛門、尾上菊五郎合同一座でありましたが、吉右衛門との折合悪くて別れ、今では菊五郎が孤軍奮闘をつづけてゐると言ふ有様です。

●下谷藝妓

下谷藝妓と言へば、東京でも二流處の藝妓で、腕の確かなのがゐるとの評

判です。いや／＼、腕が確かなばかりぢやアない。不忍辨天様の周圍に住んでゐるから、美しいのも澤山あると言ふことです。見物に飽きたり疲れたら、辨天様でも參詣してから、生きた辨天様の音楽を聞くのも一興でせう。

●淺草區

東京見物といへばすぐ淺草を聯想する位で、大分地方人には馴染みが深い處であります。日本橋京橋に次いで、市中でも賑やかな處で、夜が夜半でも人通りが絶えたことがありません。

この區で見るとべき處は大分あります。先づ淺草公園から新吉原へかけて、一日見て歩いても見切れぬ位ありますから、左に順を追うてお話しませう。

●●●●● 浅草公園 こゝは公園と言つても、決して閑静な處ぢやありません。朝から晩まで樂隊の音やら人の足音で、火事場のやうな騒ぎです。それだけまた面白いことも面白く、園内には活動寫眞、芝居、玉乗り、歌劇、色々な常設館があり、木の蔭などもそれ相當にあります。

●●●●● 仲見世 雷門で電車を降りて、正面觀音堂へ向つて行く兩側を仲見世と言つて、お土産ものやら、玩具、小間物、などを賣つてをります。この仲見世の裏側には二三有名な料理店などがあり、その甘さうな匂ひに鼻をびくつかせながら行くと、朱塗の高樓が仁王門です。

●●●●● 仁王門 門は全部朱塗りで、中央に日本橋の魚河岸から奉納した、六疊敷燈の大提灯が下つて居ります。兩側には木彫の仁王様が門番をしてゐて、その前には澤山の草鞋が掛

けてあります。小指の頭位ゐるの草鞋から三尺もあらうと言ふ金の草鞋、何でも何かのおまじなひだと聞きましたが、足の強くなるおまじなひか、それとも脚氣のおまじなひか、兎に角不思議なものに違ひありません、この仁王門を潜ると右側に五重塔があつて、突き當りが觀音堂と言ふ譯です。

●●●●● 觀世音 今から二百七十年ばかり昔建てられたもので、俗に十八間四面と言はるる本堂がこれです。實際は十六間餘に十五間餘の大きさで、四周が廊下になつて居ります。この廊下の上には狩野家などの筆になつた、有名な額面などが澤山掛けてあるから、後學のため一見する價値は充分でせう。この觀音堂の後ろにあるのが淺草神社と言つて、一寸八分の觀世音の靈像を、宮戸川から拾ひ上げた漁士の兄弟を祀つたものです。

●●●●● 傳法院 これは觀音堂のすぐ前にあります。

●●十二階 浅草区内へ這入ると、中空高く聳えて見えるのが、十二階です。昔は東京で一番高い建物だつたと言ふことですが、今では外に澤山高い建物が出来たので、さう高いとは申されません。それでも頂上へ登ると、東京の半分は見下せますから、若干かのお金で遠目鏡を借りて眺めるのもよいでせう。十年ばかり前にこの十二階から飛び降りて、自殺した女があつたので、今では各階の窓に金網が張つてあります。

●●芝居 浅草の芝居と言ふのは、澤山あります。先づ古いのは宮戸座、常盤座、駒形劇場、新しいのは公園劇場、観音劇場など、それ／＼若手の名代俳優が出て、面白い芝居を見せてゐます。右のうちでは宮戸座、公園劇場は舊劇、常盤座は新派、観音劇場は曾我廼家五九郎一派の喜劇で知られてゐると言ふ譯です。この外につひ先日まで、吾妻座、御園座などと言ふ大芝居がありました。火災に逢つて今はありません。まア東京見物の

序では、一幕位見るもよいでせう。

●●活動寫眞 今は活動寫眞の流行時なので浅草公園には斯道の優なるものが軒を並べて居ります。先づ古い歴史を有するのと西洋寫眞で有名なるが電気館、帝國館、富士館、日本寫眞で有名なのがオペラ館などです。其外にキネマ倶楽部などと言ふのがあつて、新しい文藝寫眞を出すので、斯道の通が見にゆきます。それから活動寫眞と共に、この浅草の最新流行物に、オペラと言ふのがあります。私などが聞いたのでは何のこともやら解りませんが、驢馬と豚が喧嘩をするやうな聲を出して唱ひ、その歌につれて踊るもので、なか／＼人氣を呼んでゐる様子です。この驢馬と豚の喧嘩で有名なのが金龍館でせう。

●●花やしき 昔から東京見物の人には、お馴染みの深い處です。これは活動寫眞館や芝居のやうに、一種類の演藝を見せるのではなく、広い場所へ人形芝居やら二輪加やら、

動物の藝當まで見せる處で、目先が變つて面白い處から、澤山の見物人が毎日押しよせてゐます。

玉乗り

これは昔ながらの淺草名物の一つでせう。若い女や若い男が、素肌の上へ肉シャツ一枚を着て、丸い玉に乗つて藝をやつたり、高い處へ上つて曲藝をやりまゝです。見てゐてもハラ／＼するやうな際どい藝をやるので、今でも相當に廢りません。この玉乗りではつひ先日まで、上州は八木村の八木節をやつてゐましたが、今はどうなりましたか。

東本願寺

築地の本願寺別院と相對する大きなお寺で、公園を出ると電車通りにあります。

吾妻橋

永代橋、新大橋、兩國橋、厩橋と並んで、隅田川を跨いで本所向島へ渡る橋で、鐵橋としてはなかく古い方です。

待乳山

これは電車を南千住行へ乗つて、吉野橋で降りると直ぐの處で、歌澤などに歌はれた由緒のある處です。

大鷲神社

これは吉原の内にあつて、俗にお酉様と言ひます。毎年十一月の酉の日は市が立つて、お福の面をつけた熊手を賣つてをります。この熊手は東京の水商賣、つまり請負師、藝妓屋、料理店などにはなければならぬ縁起もので、この日にはみな先を争つて買ひに出かけると言ふことです。

新吉原

不夜城として世に隠れもない吉原は、淺草區から五六丁、西の方へ寄つた處にあります。昔は田圃を隔てて向ふにあつたのだが、今は途中も軒並みになつて賑はしく大門内もすつかり改善されて立派になつてをります。ここで有名な貸座敷と言へば先づ大文字樓、角海老樓、稻本樓等で、娼妓も美しいのが揃つてゐるさうです。尤も昔は張見世

と言つて、皆んな往來へ向つて並んでゐたのが、今はそれが禁じられて、みな寫眞に替り
ましたから、どんな娼妓があるか、揚つて見なければ實物はわかりませんが、寫眞を見れ
ば天下に稀なる別嬪ばかりのやうです。ここで一晚遊ぶのが最下等は十五圓より、最高は
五十圓位るまで、それより上は藝妓を揚げるなり男藝妓を侍らせるなり、お勝手次第お望
み次第ですが、まあ、そんなに振舞ふのも無用でせう。

この外にこの區には、淺草六區に私娼が澤山軒を並べてゐたものですが、大分其筋がや
かましいので、この頃はあまり發展してゐないと言ふことです。

又、この區内の藝妓と言へば、吉原廓内にも勿論一流處の藝妓が澤山ありますが、其外に
も淺草公園、それよりもまだ、東京でも名妓のうちの名妓ばかりると言ふ、柳橋の
藝妓が居ります。

柳橋 これは淺草公園からは余程離れて日本橋の方に近よつてゐます。兩國橋の際か
ら、平右衛門町へ掛けて、ここが粹の粹たる柳橋藝妓屋町で、先づ以て東京の藝妓と言へ
ば、腕にかけてはこの右に出づるものはないと言ひます。柳橋で有名な青樓は龜清、柳
光亭、これはみな隅田川の岸邊にあつて、兩國橋の上から見ることが出来ます。

本 所 區

昔は吉良上野介の邸へ赤穂義士が討入をしたので有名であり、今は工場地として有名な
のが本所です。その外にこの區には角力の常設館があり、向島の櫻花があり、なか／＼
見る處があります。

この區で見物すべき處と言へば、(一)神社佛閣では回向院、三園神社、牛島神社、長命

秋葉神社

三圍神社と妙見堂の間位に當る處にありますが、今は名所と言ふ程の處でもありません。ただこの周圍には藝妓屋町があつて 秋葉藝妓の一廓をなしてゐます。

壽座

緑町で電車を降りるとちぎで、本所區では唯一の劇場です。俳優は森三之助一派と言つて、あまり高級な役者ではありませんが、工場地の人々を喜ばせてゐます。

國技館

江戸の花と言はれる大角力の興行される常設館で、兜の形をした鐵骨の大建物です。大正七年の春焼失しましたが、今は再建築が出来て、毎年一月と五月に大相撲の興行があります。この興行は本場所と言つて、相撲の昇落に關係しますから、各力士も力の限り奮闘すると言ふことです。ここにこの常設館がある處から、近所には力士の部屋が澤山あります。

サツホロビール庭園

古は佐竹侯の邸園であつたのを、今サツホロビールの庭園と

して、夏になるとビールの即賣をいたします。大コップに一杯二十錢で、豆をつまみながら天下國家を論じ合つてゐる連中が、夕方から一杯つめかけてゐます。

向島の堤

昔から櫻の名所として知られてゐるのは此處です。吾妻橋で電車を降りると、すぐサツホロビール庭園、その前の枕橋を渡るとつとこの堤が続いてゐますから、是非通つて見るのですね。春は花がよく、夏は隅田の川風が涼しいので、夕方から物言ふ鴛鴦が澤山出かけて居ります。隅田川の名物は都鳥ですが、これは業平卿が詠んだ

名にしおはばいざ言問はむ都鳥

わが思ふ人はありやしやと

の歌で、皆さん御承知のこととせう。この堤を傳はつてゆくと、江戸時代から有名な竹屋の渡船があり、少し行くと言問ひ團子と言ふ有名な團子がありますから、これを一盆喰べ

るのもよいでせう。

向島藝妓

向島藝妓と言ふと、昔は腕で鳴らしたのですが、今は腕の達者なのは少いと言ひます。多くは山の手や新橋あたりから、成金連が藝妓を連れて遠出にやつて来る處で、料理屋には有名なのが澤山あります。枕橋の八百松、水神の八百松、人金の蜆汁など昔から通人の行く處があります。

深川區

昔神田兒に次いで江戸子の生粹とされたのは、この深川兒です。それに辰巳藝妓と言つて、この藝妓はお江戸藝妓を代表したものですから、昔は有名な土地であつたに違ひありません。また辰巳藝妓に次いで、洲崎遊廓もなかく屈指な名物でせう。

ここは見物する處が尠く、(一)神社佛閣では富ヶ岡八幡宮、不動堂、芭蕉翁古跡の三、(二)其他では洲崎遊廓に辰巳藝妓位なものでせう。

富ヶ岡八幡宮

これは不動堂と並んで、深川公園内にあります。こここの祭は深川の祭として、殆んど日本一の評判を受けてゐる神社です。此の土地の氏神様で、全くその祭禮の時の賑はひは大變なものです。御輿は百臺に近ひ華麗なものがあつて、大祭の折にはその大御輿がみな揃つて、洲崎遊廓に練り込むのさうです。その有様は活動寫真などにも取つてある位で、日本の一名物に數へられて居ります。この土地には佐賀町、木場町など言ふ粹な町があつて、肩の強い人が澤山ありますから、この澤山の御輿も、華やかな揃ひの浴衣で擔がれてゆのでせう。揃ひの浴衣と言へば、この土地の大祭の時、その揃浴衣が名物で、中には縮緬やら羽二重などで、立派なものを作る人もあります、兎に角

一生に一度は、この夏祭りを^み見て置いて^おも損はありまはん。

●●●**不堂動**

下總成田山新勝寺の出張所^{しよつちやうじよ}で、花柳界の信仰の厚い佛様^{ぼつぎやう}です、毎月廿八日の縁日には夜店商人^{よみせしやうじん}などが^で出て賑はひ、又毎年二月の年越しの日には、豆撒き式^{まめまきしき}で大賑はひに賑はひます。

●●●**芭蕉庵の古跡**

東大工町にある臨川寺^{りんせんじ}と言ふのが、俳諧の聖人^{せいじん}と言はれた松尾芭蕉翁の開基^{かいき}で、萬年橋の附近には芭蕉庵^{ばせうあん}のあつた處^{ところ}があります。

古池^{ふるいけ}や蛙飛び^{かはぶこ}込む水の音^{なる}

と言ふ、俳句の手本^{てほん}と言はれた句は、この附近で吟じられたものださうです。

●●●**洲崎遊廓**

洲崎遊廓^{すさきゆうかく}は日本橋から真直^{まっすや}に^く来る電車の終點^{しうてん}です。こゝは海岸^{かがん}に當つてゐるので、吉原よりは朝の氣分^{あさきぶん}がよいと言ふので、粹な遊客^{すいなゆうかく}が通ひつめる處^{ところ}だと言ひますが

どんなものですか。ここで有名な貸座敷^{かぜしき}と言へば、先づ本金樓^{ほんかねろう}、甲子樓^{かうしろう}、八幡樓^{やわたろう}などでせう。遊興費^{ゆうきやうひ}は遊びやうによつて際限^{さいげん}がありませんが、まづ十圓から五十圓位^{まいご}るまでで一晚の歡樂^{たのしみ}が盡せるでせう。

●●●**辰巳藝妓**

辰巳藝妓^{たつみげいぎ}と言つても、今では昔の佛^{おほかみ}はありませんが、それでも八幡宮^{やわたみやう}の附近には大分藝妓屋^{おほいぶんげいぎや}、待合料理店^{まちあひれうりてん}などがあつて、大分盛つて居ります。ここで有名な料理店^{れんりてん}と言へば、先づ昔からの風雅な家^{ふうがなうち}では伊勢平^{いせへい}、新らしい家^{あたらしいうち}では一力^{いちりき}などが一流所^{いちりゅうじよ}と言へませう。

府下之部

東京は市内よりは、府下^{ふか}の方が見物^{けんぶつ}する處^{ところ}が多いやうです。尤も市内のやうに大厦高樓^{たしかかうろう}

などは妙いやうですが、そのかはり江戸時代から残つてゐる名所舊蹟は、府下には尠くありません。だから東京見物に出かけたなら、どうしても府下の名所を一廻りして来る必要がありませんが、ただ不便なことには公通の便は市内ほど自由ではありませんから、見物には骨が折れます。それだけに僅かな日数では思ふやうに見物出来ませんが、兎に角廻れる所だけをお話しいたしませう。

まづ、府下で便利よく見物出来る處は、明治神宮、編戸天神、眞間山弘法寺、飛鳥山、白鬚神社、目黒不動、祐天寺、本門寺等でせう。以下順を遂ふてお話しいたしませう。

明治神宮 市内電車なら神宮前、山手電車なら代々木で下車すればよいでせう。ここを降りて少しゆくと、すぐ明治神宮が見える程で、参詣する者とせぬ者にとに拘はらず、襷を止さずにはゐられなくなります。

明治神宮は明治天皇並に照憲皇太后の御靈を齋き奉つた處で、此處へは是非其参詣しなければなりません。この神宮の造営は、六年間を費して大正九年十一月一日鎮座祭が行はれたもので、その費用は五百二十一万九千五百六十三圓であると申されます。出来た時の鎮座祭は、十一月一日から三日間、東京市の大祭を始め、全国各地に遙拜の大祭が行はれました。

社格は官幣大社で、出雲大社、熱田神宮などと同格であります。宮司は一條實輝公と申して五攝家の一にお生れの方です。宮司を仰せ付けられた折の實輝公の御詠みになつた歌は

いまもなほ君のよにますこころもて

つかへまつらむかみのみたまに

と申します。

本殿玉垣内だけの廣さを申しても六千五百坪餘と言ふことですから、日本のお宮では最も大きなものです。これに内苑外苑等があつて、四圍の風光の神々しさは申すまでもありませんから、拜詣する者は自から頭が下らずには居りませぬ。

龜戸天神

柳島終點で市内電車を降りて三丁程、昔は龜戸と言へば風流人の遊んだ所です。藤の盛り、梅の盛りには俳人やら歌人やら、風流の道に遊ぶ人達が、みな杖を曳いたものだと言はれてゐます。が今では附近に工場が澤山出来、度々水害などを蒙つたために、梅も藤も見ると影もありません。それでも筑前太宰府の廟に摸したと言ふ社殿や、名物の太鼓橋は、昔のまゝに神さびてゐますから、これを見るだけでま價值は充分にあります。この頃ではここは風流人の遊び所と言ふよりも、花柳の巷となつてゐて、所謂龜戸藝妓の

巢窟となつてゐて、絃歌の聲が絶えたことがありません。名物は船橋屋の「くすもち」で、昔は俳味のあるその味を賞翫したものださうですから、ここをたづねたら、一盆召上つて見るのも一興でせう。

真間山弘法寺

押上で市内電車を降りて、京成電車に乗り替へると、四十分程で市川新田に到着します。ここから二三丁行くと真間山で、石段を登ると弘法寺です。眺めもし、寺も寂びがあつて、なかく落つきのあるお寺ですから、一日暇を見てお詣りするのによいでせう。この弘法寺の下には、有名な手古奈の宮があります。手古奈と言ふのは、こゝが入江になつてゐた頃に住んでゐた美しい娘で、戀さるる二人の男に義理を立てて死んだと言ふ、貞操の堅い婦人のことです。このお宮には彼の萬葉集と言ふ古い書物にある歌聖人麻呂の歌

われも見て人にも告げむ葛飾の

真間の手古奈のおくつきどころ

と言ふ歌を書いた、額面が掛けてありますから、後學のために一見して置くのもよいでせう。

飛鳥山

ここは上野から汽車で二十分程、王子で降りるとすぐ上に見えます。昔は「かはらけ投げ」と言つて、山の上からお煎餅のやうなかはらけを投げて遊んだもので、風流人の遊んだ所ですが、今では櫻の盛りに花見客が来る位のものでせう。小さな瀧などがあり、海老屋、扇屋などと言ふ古風な料理店がありますから、一日立廻つて見るのも面白いでせう。

白鬚神社

向島から五六丁、白鬚橋の傍に白鬚神社があります。其先には梅若塚で有

高い木母寺があり、四季の花を集めた百花園がありますから、向島へ出た序では、この方々へも廻つて見るのですね。百花園の茶店には「お茶きこしめ梅干も候」と、俳諧寺一茶の書いた木札がかゝつてゐて、なかく風流な味があります。

目黒不動

目黒終點で市内電車を降りると五六丁、天台宗に屬し、慈覺大師が草創されたものださうです。境内には小さな人造の瀧があり、料理店があり、遊ぶ處は充分あります。境内には芝居でお馴染みの白井権八、小紫の塚があります。附近には祐天寺といふ大寺がありませんから、一見する價値はあるでせう。

本門寺

日蓮上人入寂のお寺として有名な本門寺は、府下荏原郡の池上村にあります。車中は品川から省線か京濱電車に乗り、大森で降りるとちきです。毎年十月十二日より十四日までお會式があるが、この時は關東の信者の大方が團扇太鼓を叩き、大きな花萬

燈を擔いで、この附近を練り歩き、木門寺に集ります。寺内は日蓮上人に關する様々な遺物などがありますから、ここは信仰のあるなしに拘はらず、一度參詣して置く必要がありますませう。境内には狩野派南畫家の巨匠として知られた狩野探幽、また、明治初年の政治家として知られた星亨などの墓があります。

横濱市

さア、東京の見物がすみましたから、今度は一寸横濱へ廻つて見物して來ませう。横濱は東京を距ること僅かに八里、東京驛から省線の電車へ乗つて、櫻木町驛で下車すればよいのです。この料金は三等で四十五錢、往復ならば八十九錢、一日で見物して歸れるから、まア序での時に見物して來ても損はないでせう。たゞ茲で一寸、東京見物傍々横濱

へ廻らうとする人々に、注意して置きたいことは、東京驛の乗車口が、汽車の場合と電車の場合とは違ふことです。汽車へ乗るには普通の乗車口、即ち東京驛の南口から這入ればよいのだが、電車へ乗る場合は普通の降車口、即ち北口の方から這入ることです。私なども初めはその呼吸が分らなかつたので、随分まごついて、思はぬ時間を潰したものですよ。此の横濱市は、武藏國に屬するもので、東京灣の西濱に當り、今から五十年の昔は、蕭條たる一漁村に過ぎなかつたものです。それが安政六年始めて開港場と定められてからは、段々と發展して、今では人口四十萬を算し、吾國第一の貿易港となつて居ります。こゝは外國航路の基點となつてをりますから、朝に夕に出入する内外汽船の数は夥しいもので、支那朝鮮からアメリカ、佛蘭西、獨逸、赤い髭やら青い眼玉の所謂異人さんの往來が非常に盛んです。まア横濱見物と云へば、この異國情調とでも云ひませうか、一寸日本人の心

持と違つた有様を見にゆくやうなものです。

此の土地で見ると云へば、先づ波止場を第一に數へて、税關、港務部、水産試験場、測候所、市役所、水道局、瓦斯局、十全醫院、師範校、女師範校、工業學校、第一第二中學校、高等女學校等ですが、東京の建物を見た目では、さう驚くやうなものはありません。それよりもまづ見物するなら波止場の外には、あの有名な金満家、原富太郎氏の庭園、三溪園をはじめ、井伊大老の銅像のある掃部公園、横濱公園、十二社などでせう。

● 棧橋

棧橋は汽船を繋留する處で、毎日四隻や五隻の大汽船の留つてゐないことはありません。この棧橋には、二萬噸級の汽船が四隻は繋留出来ると云ふことで、見上げるばかりな大きな船が、棧橋間近く繋がれてゐるのを見る。其壯觀はまた格別です。時に外國汽船でも着いてゐると、居ながらにして外國の風俗人情に觸れると云ふやうな譯ですか

ら、面白いばかりか参考のためには、一度見て置く必要がありません。こゝの築港工事は明治二十二年に始まり、同廿九年に竣工したのを、また擴張工事を起して、大正六年十二月に全く工事を終つたもので、其當時盛大な竣工式がありました。その時の壯觀は今でも横濱人の話の種となつてゐます。

● 三溪園

三溪園は横濱人の自慢の一つで、金満家の原富太郎氏の庭園です。庭園と云つても其廣大なことは見渡すことの出来ない程で、中には山あり、川あり、谷あり、海あり、横濱人の話では、近江八景に模して作つたものだと言ひますから、まア一口に云へば、この庭園に遊ぶだけで、近江八景を見て来たと同じやうな譯です。殊にこの庭園のなかにある建物は、みな有名な骨董建築で、例の瀧口入道で有名な横濱庵、正行で有名な如意輪堂などがあります。一度は見て置くべきでせう。

100/

大正十一年二月十日印刷
大正十一年二月十日發行

定價金六十錢

著者 東京市日本橋町箱崎町四丁目二番地 太田 一 視

印刷所 東京市京橋區松屋町一丁目六番地 坂根印刷工場

印刷者 同 鈴木良太郎

發行所 東京市日本橋區箱崎町四ノ貳 星成社營業所

發賣元

東京市日本橋區本石町

至誠堂書店

終

